

一般社団法人 日本救急医学会 救急科専門医	0	人	13	人	88	✓
特定非営利活動法人 日本胸部外科学会 指導医 (終身指導医を含めてよい)	0	人	0	人	89	✓
特定非営利活動法人 日本胸部外科学会 認定医 (終身認定医を含めてよい)	0	人	0	人	90	✓
一般社団法人 日本禁煙学会 認定専門指導者	0	人	1	人	91	✓
一般社団法人 日本形成外科学会 形成外科専門医	0	人	2	人	92	✓
一般社団法人 日本形成外科学会 皮膚腫瘍外科指導専門医	0	人	1	人	93	✓
一般社団法人 日本外科学会 外科専門医	0	人	20	人	94	✓
一般社団法人 日本血液学会 血液専門医	0	人	1	人	95	✓
一般社団法人 日本呼吸器学会 呼吸器専門医	0	人	5	人	96	✓
呼吸器外科専門医合同委員会 呼吸器外科専門医	0	人	2	人	97	✓
特定非営利活動法人 日本呼吸器内視鏡学会 気管支鏡専門医	0	人	1	人	98	✓
一般社団法人 日本サイコオンコロジー学会 登録精神腫瘍医	0	人	1	人	99	✓
公益社団法人 日本産科婦人科学会 産婦人科専門医	0	人	11	人	100	✓
一般社団法人 日本耳鼻咽喉科学会 耳鼻咽喉科専門医	0	人	3	人	101	✓
一般社団法人 日本周産期・新生児医学会 周産期(新生児)専門医	0	人	2	人	102	✓
一般社団法人 日本循環器学会 循環器専門医	0	人	6	人	103	✓
一般社団法人 日本消化器外科学会 指導医	0	人	3	人	104	✓
一般社団法人 日本消化器外科学会 消化器がん外科治療認定医	0	人	5	人	105	✓
一般社団法人 日本消化器外科学会 消化器外科専門医	0	人	4	人	106	✓
一般社団法人 日本消化器内視鏡学会 消化器内視鏡専門医	0	人	6	人	107	✓
一般社団法人 日本消化器病学会 消化器病専門医	0.8	人	11	人	108	✓
一般社団法人 日本消化器病学会 消化器病指導医	0	人	0	人	109	✓
公益社団法人 日本小児科学会 小児科専門医	0	人	10	人	110	✓
特定非営利活動法人 日本小児外科学会 小児外科専門医	0	人	2	人	111	✓
一般社団法人 日本小児神経学会 小児神経専門医	0	人	0	人	112	✓
一般社団法人 日本神経学会 神経内科専門医	0	人	0	人	113	✓
心臓血管外科専門医認定機構 心臓血管外科専門医	0	人	2	人	114	✓
特定非営利活動法人 日本心療内科学会 心療内科専門医	0	人	0	人	115	✓
一般社団法人 日本腎臓学会 腎臓専門医	0	人	4	人	116	✓
一般社団法人 日本人類遺伝学会 臨床遺伝専門医	0	人	2	人	117	✓
公益社団法人 日本整形外科学会 整形外科専門医	0	人	9	人	118	✓
一般社団法人 日本生殖医学会 生殖医療専門医	0	人	0	人	119	✓
公益社団法人 日本精神神経学会 精神科専門医	0	人	2	人	120	✓
一般社団法人 日本専門医機構 総合診療専門医	0	人	0	人	121	✓
一般社団法人 日本造血・免疫細胞療法学会 造血細胞移植認定医	0	人	1	人	122	✓
一般社団法人 日本総合病院精神医学会 一般病院連携精神医学専門医	0	人	1	人	123	✓
一般社団法人 日本大腸肛門病学会 大腸肛門病専門医	0	人	2	人	124	✓
一般社団法人 日本超音波医学会 超音波専門医	0	人	3	人	125	✓
特定非営利活動法人 日本頭頸部外科学会 頭頸部がん指導医 (頭頸部がん暫定指導医を含めてよい)	0	人	0	人	126	✓
特定非営利活動法人 日本頭頸部外科学会 頭頸部がん専門医	0	人	0	人	127	✓
一般社団法人 日本透視医学会 透視専門医	0	人	4	人	128	✓
一般社団法人 日本糖尿病学会 糖尿病専門医	0	人	4	人	129	✓
一般社団法人 日本東洋医学会 漢方専門医	0	人	1	人	130	✓
一般社団法人 日本内科学会 総合内科専門医	0.52	人	18	人	131	✓
一般社団法人 日本内視鏡外科学会 呼吸器外科領域 技術認定所有者	0	人	0	人	132	✓
一般社団法人 日本内視鏡外科学会 産科婦人科領域 技術認定所得者	0	人	2	人	133	✓
一般社団法人 日本内視鏡外科学会 消化器・一般外科領域 技術認定所得者	0	人	5	人	134	✓
一般社団法人 日本内視鏡外科学会 泌尿器科領域 技術認定所得者	0	人	1	人	135	✓
一般社団法人 日本内分泌学会 内分泌代謝科専門医	0	人	2	人	136	✓
日本内分泌外科学会/日本甲状腺外科学会 内分泌外科専門医	0	人	1	人	137	✓
一般社団法人 日本乳癌学会 乳腺専門医	0	人	2	人	138	✓
一般社団法人 日本乳癌学会 乳腺認定医	0	人	1	人	139	✓
特定非営利活動法人 日本乳がん検診精度管理中央機構 検診マンモグラフィ読影認定医師A評価	0	人	3	人	140	✓
特定非営利活動法人 日本乳がん検診精度管理中央機構 検診マンモグラフィ読影認定医師B評価	0	人	0	人	141	✓
一般社団法人 日本熱傷学会 熱傷専門医	0	人	1	人	142	✓
一般社団法人 日本脳神経外科学会 脳神経外科専門医	0	人	4	人	143	✓
特定非営利活動法人 日本脳神経血管内治療学会 脳血管内治療専門医	0	人	2	人	144	✓
一般社団法人 日本泌尿器科学会 泌尿器科専門医	0	人	2	人	145	✓
一般社団法人 日本泌尿器科学会/日本泌尿器内視鏡学会 泌尿器腹腔鏡技術認定医	0	人	1	人	146	✓
公益社団法人 日本皮膚科学会 皮膚科専門医	0	人	2	人	147	✓
一般社団法人 日本病理学会 病理指導医	0	人	1	人	148	✓
一般社団法人 日本病理学会 病理専門医	0	人	2	人	149	✓
公益社団法人 日本婦人科腫瘍学会 婦人科腫瘍専門医	0	人	1	人	150	✓
一般財団法人 日本ペインクリニック学会 ペインクリニック専門医	0	人	0	人	151	✓
公益社団法人 日本麻酔科学会 麻酔科認定医	0	人	1	人	152	✓
公益社団法人 日本麻酔科学会 麻酔科専門医	0	人	6	人	153	✓
公益社団法人 日本麻酔科学会 麻酔科指導医	0	人	2	人	154	✓
一般財団法人 日本リウマチ学会 リウマチ専門医	0	人	3	人	155	✓
公益社団法人 日本リハビリテーション医学会 リハビリテーション科専門医	0	人	0	人	156	✓
公益社団法人 日本臨床細胞学会 細胞診専門医	0	人	3	人	157	✓
特定非営利活動法人 日本臨床腫瘍学会 がん薬物療法指導医	0	人	1	人	158	✓
特定非営利活動法人 日本臨床腫瘍学会 がん薬物療法専門医	0	人	3	人	159	✓
一般社団法人 日本臨床検査医学会 臨床検査専門医	0	人	0	人	160	✓
特定非営利活動法人 日本レーザー医学会 レーザー専門医	0	人	0	人	161	✓
一般社団法人 日本老年医学会 老年病専門医	0	人	0	人	162	✓
一般社団法人 日本がん・生殖医療学会 認定がん・生殖医療ナビゲーター	0	人	0	人	163	✓
一般社団法人 日本集中治療医学会 集中治療 専門医	0	人	2	人	164	✓
一般社団法人 日本心血管インターベンション治療学会 専門医	0	人	0	人	165	✓
一般社団法人 日本脳卒中学会 専門医	0	人	1	人	166	✓
167						
歯科医師						
公益社団法人 日本口腔外科学会 口腔外科専門医	0	人	1	人	169	✓
一般社団法人 日本病理学会 口腔病理専門医	0	人	0	人	170	✓
171						
看護師						
公益社団法人 日本看護協会 がん化学療法看護認定看護師	0	人	3	人	173	✓

公益社団法人 日本看護協会	がん薬物療法看護認定看護師	0	人	0	人	174	✓
公益社団法人 日本看護協会	がん看護専門看護師	0	人	0	人	175	✓
公益社団法人 日本看護協会	がん性疼痛看護認定看護師	0	人	1	人	176	✓
公益社団法人 日本看護協会	がん放射線療法看護認定看護師	0	人	1	人	177	✓
公益社団法人 日本看護協会	緩和ケア認定看護師	0	人	9	人	178	✓
公益社団法人 日本看護協会	手術看護認定看護師	0	人	1	人	179	✓
公益社団法人 日本看護協会	精神看護専門看護師	0	人	2	人	180	✓
公益社団法人 日本看護協会	摂食・嚥下障害看護認定看護師	0	人	1	人	181	✓
公益社団法人 日本看護協会	地域看護専門看護師	0	人	0	人	182	✓
公益社団法人 日本看護協会	乳がん看護認定看護師	0	人	0	人	183	✓
公益社団法人 日本看護協会	皮膚・排泄ケア認定看護師	0	人	2	人	184	✓
公益社団法人 日本看護協会	慢性心不全看護認定看護師	0	人	0	人	185	✓
公益社団法人 日本看護協会	生殖看護認定看護師	0	人	0	人	186	✓
一般社団法人 日本インターベンショナルラジオロジー学会・一般社団法人 日本心血管インターベンシ ョン治療学会合同認定	インターベンションエキスパートナース	0	人	0	人	187	✓
③その他専門的技術・知識を有する医療従事者						188	
			非常勤	常勤		189	
※(常勤換算)						190	
一般社団法人 日本臨床腫瘍薬学会	外来がん治療認定薬剤師	0	人	1	人	191	✓
一般社団法人 日本医療薬学会	がん専門薬剤師	0	人	0	人	192	✓
一般社団法人 日本病院薬剤師会	がん薬物療法認定薬剤師	0	人	2	人	193	✓
一般社団法人 日本緩和医療薬学会	緩和薬物療法認定薬剤師	0	人	1	人	194	✓
特定非営利活動法人 日本乳がん検診精度管理中央機構	検診マンモグラフィ撮影診療放射線技師	0	人	7	人	195	✓
	放射線治療品質管理機構 放射線治療品質管理士	0	人	1	人	196	✓
	日本放射線治療専門放射線技師認定機構 放射線治療専門放射線技師	0	人	2	人	197	✓
一般財団法人 医学物理士認定機構	医学物理士	3	人	0	人	198	✓
公益社団法人 日本臨床細胞学会	細胞検査士	4	人	7	人	199	✓
一般社団法人日本人類遺伝学会及び日本遺伝カウンセリング学会	認定遺伝カウンセラー	0.1	人	0	人	200	✓
一般社団法人日本家族性腫瘍学会	家族性腫瘍カウンセラー	0	人	0	人	201	✓
一般社団法人 日本病態栄養学会／		0	人			202	✓
公益社団法人 日本栄養士会	がん病態栄養専門管理栄養士		人	0	人	202	✓
四病院団体協議会／医療研修推進財団	診療情報管理士	1.6	人	15	人	203	✓
一般社団法人 日本生殖心理学会	がん・生殖医療専門心理士	0	人	0	人	204	✓
④その他の従事者						205	
	診療録管理部門の職員	4	人	0	人	207	✓
公益財団法人 日本臨床心理士資格認定協会	臨床心理士	1.34	人	2	人	208	✓
	臨床試験コーディネーター	0	人	4	人	209	✓
(5)その他						210	
①夜間(深夜も含む)救急対応の可否				可 (可／否)		211	✓
②各種委員会の設置状況						212	
倫理審査委員会	あり	(あり／なし)	年 6	回開催(期間:令和3年1月1日～12月31日)		213	✓
治験審査委員会	あり	(あり／なし)	年 10	回開催(期間:令和3年1月1日～12月31日)		214	✓
医療安全委員会	あり	(あり／なし)	年 12	回開催(期間:令和3年1月1日～12月31日)		215	✓
(6)患者数・診療件数の状況						216	
①患者数等(期間:令和3年1月1日～12月31日)						217	
年間入院患者数※1				14,879	人	219	✓
年間入院がん患者数※2				4,151	人	220	✓
年間入院患者数に占めるがん患者の割合				27.9	%	221	
年間外来がん患者延べ数※3				27,190	人	222	✓
年間院内死亡がん患者数				355	人	223	✓
※1 同一患者について、当該期間における同一主傷病に対する複数入院はまとめて、1人と計上する。同一患者について、異なる主傷病に対す る入院は それぞれ別個に計上する。 例えば、同一患者が当該期間に同一主傷病で2回入院した場合は1人とする。異なる主傷病で2回入院した場合は2人とする。 また、一回当たりの入院日数を問わず、入院した患者がその日のうちに退院あるいは死亡した場合も1人として計上する。 (令和3年1月1日以降の入院について計上する。) ※2 がん患者数等は、がんを主たる病名に確定診断されたものについて計上すること。 ※3 年間外来がん患者延べ数は、当年の新来、再来がん患者及び往診、巡回診療、健康診断、人間ドック等を行い、診療録の作成または記載 の追加を行ったがん患者の延べ数を記入する。同一患者が2つ以上の診療科を受診し、それぞれの診療科で診療録の作成または記載の追加を 行った場合、それぞれの外来患者として計上する。						224	
						225	
②検査等の実施状況						226	
ア 病理診断の件数(期間:令和3年1月1日～12月31日)						227	
病理診断				6,740	件	229	✓
細胞診断				7,190	件	230	✓
病理組織迅速組織顕微鏡検査				291	件	231	✓
						232	
						233	
(7)地域がん診療病院とグループ指定を受けている。				はい (はい／いいえ)		234	✓
グループ指定を受けている場合、その状況について別紙27に記載すること。						235	
						236	
(8)各治療の状況について						237	
手術等の状況						238	
大腸がん・肺がん・胃がん・乳がん・前立腺がん・肝臓臓がんに関する悪性腫瘍の手術件数(令和3年1月1日～12月31日)						239	
大腸がん(C18\$, C19、C20、D01.0、D01.1、D01.2)の手術件数						240	
開腹手術 K7193、K739\$, K740\$				39	件	241	✓
腹腔鏡下手術 K719-3、K740-2\$				137	件	242	✓
内視鏡手術 K721\$, K721-4、K739-2、K739-3				66	件	243	✓
肺がん(C34\$, D02.2)の手術件数						244	
開胸手術 K511\$, K514\$, K518\$				6	件	245	✓
胸腔鏡下手術 K514-2\$				167	件	246	✓
胃がん(C16\$, D00.2)の手術件数						247	
開腹手術 K654-2、K6552、K655-42、K6572				6	件	248	✓
腹腔鏡下手術 K654-3\$, K655-22、K655-52、K657-22				21	件	249	✓
内視鏡手術 粘膜切除術(EMR)K6531				0	件	250	✓
内視鏡手術 粘膜下層剥離術(ESD)K6532				54	件	251	✓
乳がん(C50\$, D05\$)の手術件数						252	
手術 K476\$				199	件	253	✓

	乳癌冷凍凝固摘出術 K475-2	0	件	254	✓
	乳腺腫瘍摘出術(生検) K474\$	16	件	255	✓
	乳腺腫瘍画像ガイド下吸引術 K474-3\$	13	件	256	✓
	乳房再建術(乳房切除後) 二次的に行うもの K476-32	0	件	257	✓
	前立腺がん(C61)の手術件数			258	
	開腹手術 K843	0	件	259	✓
	腹腔鏡下手術 K843-2、K843-3、K843-4	47	件	260	✓
	肝臓がん(C22\$, D01.5)の手術件数			261	
	開腹手術 K695\$	22	件	262	✓
	腹腔鏡下手術 K695-2\$	34	件	263	✓
	マイクロ波凝固法 K697-2\$	0	件	264	✓
	ラジオ波焼灼療法 K697-3\$	4	件	265	✓
	胆のうがん(C23)の手術件数			266	
	開腹手術 K675\$	0	件	267	✓
	腹腔鏡下手術 K675-2	0	件	268	✓
	胆管がん(C240、C241、C248、C249)の手術件数			269	
	開腹手術 K677、K677-2	1	件	270	✓
	膵臓がん(C250、C251、C252、C253、C254、C257、C258、C259)の手術件数			271	
	開腹手術 K700-2、K702\$, K703\$, K704	37	件	272	✓
	腹腔鏡下手術 K700-3、K702-2\$, K703-2\$	0	件	273	✓
	放射線治療の状況			274	
	※以下、放射線治療件数に関する項目は、必ず放射線治療責任医師の確認を取って記入すること。			275	
	全てのがんを対象としたのべ患者数 (令和3年1月1日～12月31日の間に放射線治療を開始した患者数)			276	
	体外照射	273	人	277	✓
	定位照射(脳)	18	人	278	✓
	定位照射(体幹部)	71	人	279	✓
	強度変調放射線治療(IMRT)	176	人	280	✓
	粒子線治療(重粒子線、陽子線治療)	0	人	281	✓
	密封小線源治療	7	人	282	✓
	核医学治療	5	人	283	✓
	我が国に多いがんを対象としたのべ患者数 (令和3年1月1日～12月31日の間に放射線治療を開始した患者数)			284	
	※原発巣に記載してください。			285	
	肺がん	91	人	286	✓
	胃がん	3	人	287	✓
	肝がん	7	人	288	✓
	大腸がん	9	人	289	✓
	胆のう・胆管がん	1	人	290	✓
	膵臓がん	5	人	291	✓
	乳がん	119	人	292	✓
	前立腺がん	73	人	293	✓
	緩和ケアチームに対する新規診療症例の状況(重複可)(令和3年1月1日～12月31日)			294	
	身体症状の緩和を行った症例数	392	人	295	✓
	精神症状の緩和を行った症例数	58	人	296	✓
	社会的苦痛に対する緩和を行った症例数	34	人	297	✓
	自施設で実施したがんの治療に際する妊孕性温存治療の状況(令和3年1月1日～12月31日)			298	
	がんの治療に際する妊孕性温存目的で精子保存を行った患者の人数	0	人	299	✓
	がんの治療に際する妊孕性温存目的で精巣内精子採取術(Onco-TESE)を行った患者の人数	0	人	300	✓
	がんの治療に際する妊孕性温存目的で未受精卵、受精卵(胚)、あるいは、卵巣組織の凍結保存を行った患者の人数	0	人	301	✓
				302	
	成人のがん患者の造血管腫瘍に対する自家移植を自施設で行う体制を有している。	はい	(はい/いいえ)	303	✓
	成人のがん患者の造血管腫瘍に対する同種移植を自施設で行う体制を有している。	はい	(はい/いいえ)	304	✓
	成人のがん患者の固形腫瘍に対する自家移植を自施設で行う体制を有している。	いいえ	(はい/いいえ)	305	✓
	小児のがん患者の造血管腫瘍に対する自家移植を自施設で行う体制を有している。	いいえ	(はい/いいえ)	306	✓
	小児のがん患者の造血管腫瘍に対する同種移植を自施設で行う体制を有している。	いいえ	(はい/いいえ)	307	✓
	小児のがん患者の固形腫瘍に対する自家移植を自施設で行う体制を有している。	いいえ	(はい/いいえ)	308	✓
				309	
	成人のがん患者の造血管腫瘍に対するCAR-T療法を自施設で行う体制を有している。	はい	(はい/いいえ)	310	✓
	小児のがん患者の造血管腫瘍に対するCAR-T療法を自施設で行う体制を有している。	いいえ	(はい/いいえ)	311	✓
				312	
	(9)小児がん患者への対応について			313	
	院内学級を開催している(院内学級とは、ここでは院内に設置された小・中学特別支援学級、特別支援学校を指す)。	いいえ	(はい/いいえ)	314	✓
	小児がん患者と家族が利用できる宿泊施設を院内に整備している。	いいえ	(はい/いいえ)	315	✓
	小児がん患者と家族が利用できる宿泊施設を院外に整備している。	いいえ	(はい/いいえ)	316	✓
	小児がん患者と家族が利用できる院外の最寄宿泊施設から自施設までの移動時間(該当施設がない場合には0を記入)	0	分	317	✓
				318	
	(10)その他の施設について			319	
	集中治療室を設置している。	はい	(はい/いいえ)	320	✓
	緩和ケア病棟を有している。	はい	(はい/いいえ)	321	✓
	緩和ケア病棟を有する場合、別紙6に詳細を記載すること。			322	
				323	
	(11)その他			324	
	がん検診後の精密検査を実施している。	はい	(はい/いいえ)	325	✓
	精密検査を実施している場合、令和3年4月1日～令和4年3月31日の期間に実施した精密検査の受診件数を記載してください。			326	
	※一人の患者が同一のがん種について、2回検査を受けた場合には、2件として計上してください。			327	
	※一人の患者が複数のがん種について1回ずつ検査を受けた場合には、それぞれのがん種に1件として計上してください。			328	
	大腸がん	121	件	329	✓
	肺がん	104	件	330	✓
	胃がん	213	件	331	✓
	乳がん	375	件	332	✓
	子宮頸がん	80	件	333	✓
				334	

1	2	医療機関名	山梨県立中央病院				
3	4	推進類型	都道府県がん診療連携拠点病院				
5	6	令和4年9月時点指定類型	都道府県がん診療連携拠点病院				
7	8	【記入箇所】	都道府県がん診療連携拠点病院：Ⅱ・Ⅳ（※特定機能病院である場合には、Ⅲにも回答すること。） 地域がん診療連携拠点病院：Ⅱ（※特定機能病院である場合には、Ⅲにも回答すること。） 特定領域がん診療連携拠点病院：Ⅱ・Ⅴ 地域がん診療病院：Ⅵ 【凡例】 A: 必須要件 B: 望ましい(★) C: 望ましい -: 参考				
9	10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31	32
33	34	35	36	37	38	39	40
41	42	43	44	45	46	47	48
49	50	51	52	53	54	55	56
57	58	59	60	61	62	63	64
65	66	67	68	69	70	71	72
73	74	75	76	77	78	79	80
81	82	83	84	85	86		

11 指針の箇所				要件	要件区分	令和4年9月1日 時点の状況	備考欄
87		サ		全てのがん患者に対して苦痛の把握と適切な対応がなされるよう緩和ケアに係る診療や相談支援、患者からのPRO(患者報告アウトカム)、医療用麻薬の処方など、院内の緩和ケアに係る情報を把握し、検討・改善する場を設置している。	A	はい	PRO: 自覚症状やQOLに関する対応の評価のために行う患者の主観的な報告をまとめた評価のこと。
88				それを踏まえて自施設において組織的な改善策を講じる等、緩和ケアの提供体制の改善に努めている。	A	はい	
89		④	地域連携の推進体制				
90		ア		がん患者の紹介、逆紹介に積極的に取り組むとともに、以下の体制を整備している。	A	はい	
91		i		緩和ケアの提供に関して、当該がん医療圏内の緩和ケア病棟や在宅緩和ケアが提供できる診療所等のマップやリストを作成する等、患者やその家族に対し、地域での緩和ケア提供体制について情報提供できる体制を整備している。	A	はい	別紙7に詳細を記載してください。
92		ii		希少がんに関して、専門家による適切な集学的治療が提供されるよう、他の拠点病院等及び地域の医療機関との連携及び情報提供ができる体制を整備している。	A	はい	
93		iii		高齢者ががん患者や障害者を持つがん患者について、患者や家族の意思決定支援の体制を整え、地域の医療機関との連携等を図り総合的に支援している。	A	はい	
94		iv		介護施設に同居する高齢者ががんと診断された場合に、介護施設等と治療・緩和ケア・看取り等において連携する体制を整備している。	A	はい	
95		イ		地域の医療機関の医師と診断及び治療に関する相互的な連携協力体制・教育体制を整備している。	A	はい	
96		ウ		当該がん医療圏内のがん診療に関する情報を集約し、当該がん医療圏内の医療機関やがん患者等に対し、情報提供を行っている。	A	はい	
97		エ		がん患者に対して、周術期の口腔健康管理や、治療中の副作用・併存症対策、口腔リハビリテーションなど、必要に応じて院内又は地域の歯科医師と連携して対応している。	A	はい	
98		オ		地域連携時には、がん疼痛等の症状が十分に緩和された状態での退院に努め、退院後も在宅診療の主治医等の相談に対応するなど、院内での緩和ケアに関する治療が在宅診療でも継続して実施できる体制を整備している。	A	はい	
99		カ		退院支援に当たっては、主治医・緩和ケアチーム等の連携により療養場所等に関する意思決定支援を行うとともに、必要に応じて地域の在宅診療に携わる医師と訪問看護士等と退院前カンファレンスを実施している。	A	はい	
100		キ		当該がん医療圏において、地域の医療機関や在宅療養支援診療所の医師・介護従事者等とがんに関する医療提供体制や社会的支援、緩和ケアについて情報を共有し、役割分担や支援等について検討する場を年1回以上設けている。	A	はい	
101				緩和ケアチームが地域の医療機関や在宅療養支援診療所等から定期的に連絡・相談を受ける体制を確保し、必要に応じて助言等を行っている。	A	はい	
102		ク		都道府県や地域の患者会等と連携を図り、患者会等の求めに応じてピア・サポートの質の向上に対する支援等に取り組んでいる。	A	はい	ピア・サポート: 患者・経験者やその家族がピア(仲間)として体験を共有し、共に考えることで、患者や家族等を支援すること。
103		⑤	セカンドオピニオンに関する体制				
104		ア		医師からの診断結果や病状の説明時及び治療方針の決定時等において、すべてのがん患者とその家族に対して、他施設でセカンドオピニオンを受けられることについて説明している。	A	はい	
105				説明の際、心理的な障壁を取り除くことができるよう留意している。	A	はい	
106				がん患者に対するB-010 診療情報提供書(Ⅱ)の算定件数(期間: 令和3年1月1日～12月31日)	-	32	
107		イ		当該施設で対応可能ながんについて、手術療法、放射線療法、薬物療法又は緩和ケアに携わる専門的な知識及び技能を有する医師によりセカンドオピニオンを提示する体制を整備し、患者にわかりやすく公表している。	A	はい	
108		ウ		セカンドオピニオンを提示する場合は、必要に応じてオンラインでの相談を受け付けることができる体制を確保している。	C	いいえ	
109		⑥	それぞれの特性に応じた診療等の提供体制				
110		ア		希少がん・難治がんの患者の診断・治療に関しては、積極的に都道府県協議会における役割分担の整理を活用し、対応可能な施設への紹介やコンサルテーションで対応している。	A	はい	
111		イ		小児がん患者で長期フォローアップ中の患者については、小児がん拠点病院や連携する医療機関と情報を共有する体制を整備している。	A	はい	
112		ウ		各地域のがん・生体医療ネットワークに加入し、「小児・AYA世代のがん患者等の妊産婦温存療法研究促進事業」へ参画するとともに、対象とならざる患者や家族には必ず治療開始前に情報提供している。	A	はい	
113				患者の希望を尊重するとともに、がん治療や在宅療養支援診療所の医師・介護従事者等とがんに関する診療科とともに、妊産婦温存療法及びがん治療後の生体補助医療に関する情報提供及び意思決定支援を行う体制を整備している。	A	はい	
114				自施設において、がん・生体医療に関する意思決定支援を行うことができる診療従事者の配置・育成に努めている。	A	はい	別紙10に詳細を記載してください。
115		エ		就学、就労、妊産婦の温存、アビランスケア等に関する状況や本人の希望についても確認し、自施設もしくは連携施設のがん相談支援センターで対応できる体制を整備している。	A	はい	妊産婦: 子どもをつくるために必要な能力のこと。精子や卵子だけではなく、性機能や生殖器、内分泌機能も重要な要素である。アビランスケア: 医学的・整容的・心理社会的支援を用いて、外見の変化を補完し、外見の変化に起因するがん患者の苦痛を軽減するケアのこと。
116				それらの相談に応じる多職種からなるAYA世代支援チームを設置している。	C	いいえ	別紙10に詳細を記載してください。
117				一般社団法人AYAがんの医療と支援のあり方研究会の開催する「AYA世代がんサポート研修会」を受けた院内の診療従事者の人数	-	0	
118		オ		高齢者のがんに関して、併存症の治療との両立が図れるよう、関係する診療科と連携する体制を確保している。	A	はい	
119				意思決定能力を含む機能評価を行い、各種ガイドラインに沿って、個別の状況を踏まえた対応をしている。	A	はい	
120				高齢者のがん患者に関して、必要に応じて高齢者総合機能評価を行っている。	-	いいえ	別紙10に詳細を記載してください。
121		カ		医療機関としてのBCPを策定している。	B	はい	
122		(2)	診療従事者				
123		①	専門的な知識及び技能を有する医師の配置				
124		ア		当該施設で対応可能ながんについて専門的な知識及び技能を有する手術療法に携わる常勤の医師の人数	A	16	常勤: 原則として病院で定めた勤務時間の全てを勤務する者をいう。病院で定めた医師の1週間の勤務時間が、32時間未満の場合は、32時間以上勤務している者を常勤とし、その他は非常勤とする。※一人以上の配置が必要です。
125		イ		専任の放射線診断に携わる専門的な知識及び技能を有する常勤の医師の人数	A	2	専任: 専任とは当該診療の実施を専ら担当していることをいう。この場合において、「専ら担当している」とは、その他診療を兼任していても差し支えないものとする。ただし、その就業時間の少なくとも8割以上、当該診療に従事している必要があるものとする。※一人以上の配置が必要です。
126		ウ		専任の放射線治療に携わる専門的な知識及び技能を有する常勤の医師の人数	A	2	専任: 専任とは当該診療の実施日において、当該診療に専ら従事していることをいう。この場合において、「専ら従事している」とは、その就業時間の少なくとも8割以上、当該診療に従事していることをいう。※一人以上の配置が必要です。
127		エ		専任の薬物療法に携わる専門的な知識及び技能を有する常勤の医師の人数	A	1	※一人以上の配置が必要です。
128		オ		緩和ケアチームに配置されている、専任の身体症状の緩和に携わる専門的な知識及び技能を有する常勤の医師の人数	A	2	※一人以上の配置が必要です。
129				緩和ケアチームに配置されている、専任の身体症状の緩和に携わる専門的な知識及び技能を有する常勤の医師の人数	C	0	
130				緩和ケアチームに配置されている、専任の身体症状の緩和に携わる専門的な知識及び技能を有する常勤の医師のうち、緩和ケアに関する専門資格を有する者の人数	C	2	
131				緩和ケアチームに配置されている、精神症状の緩和に携わる専門的な知識及び技能を有する常勤の医師の人数	A	1	※一人以上の配置が必要です。
132				緩和ケアチームに配置されている、専任の精神症状の緩和に携わる専門的な知識及び技能を有する常勤の医師の人数	C	0	
133		カ		専任の病理診断に携わる専門的な知識及び技能を有する常勤の医師の人数	A	1	※一人以上の配置が必要です。
134		キ		リハビリテーションに携わる専門的な知識および技能を有する医師の人数	C	1	
135		②	専門的な知識及び技能を有する医師以外の診療従事者の配置				
136		ア		放射線治療に携わる専門的な知識及び技能を有する常勤の診療放射線技師の人数	B	4	※2人以上の配置が望ましい(※)。
137				上記の診療放射線技師のうち、放射線治療に関する専門資格を有する者の人数	C	2	
138				専任の放射線治療における機器の精度管理、照射計画の検証、照射計画補助作業等に携わる専門的な知識及び技能を有する常勤の技術者等の人数	A	1	※一人以上の配置が必要です。
139				上記の技術者のうち、医学物理学に関する専門資格を有する者の人数	C	0	
140				放射線治療部門に配置されている、専任の放射線治療に携わる専門的な知識及び技能を有する常勤の看護師の人数	A	3	※一人以上の配置が必要です。
141				上記の看護師のうち、放射線治療に関する専門資格を有する者の人数	C	1	
142		イ		専任の薬物療法に携わる専門的な知識及び技能を有する常勤の薬剤師の人数	A	2	※一人以上の配置が必要です。
143				上記の薬剤師のうち、がん薬物療法に関する専門資格を有する者の人数	C	2	
144				外来化学療法室に配置されている、専任の薬物療法に携わる専門的な知識及び技能を有する常勤の看護師の人数	A	8	※一人以上の配置が必要です。
145				上記の看護師のうち、がん看護又はがん薬物療法に関する専門資格を有する者の人数	C	1	
146		ウ		緩和ケアチームに配置されている、専任の緩和ケアに携わる専門的な知識及び技能を有する常勤の看護師の人数	A	2	※一人以上の配置が必要です。
147				上記の看護師のうち、がん看護又は緩和ケアに関する専門資格を有する者の人数	A	2	※一人以上の配置が必要です。
148		エ		緩和ケアチームに配置されている、緩和ケアに携わる専門的な知識及び技能を有する薬剤師の人数(他部署との兼任を可とする。)	A	3	※一人以上の配置が必要です。
149				上記の薬剤師のうち、緩和薬物療法に関する専門資格を有する者の人数	C	1	
150				緩和ケアチームに配置されている、相談支援に携わる専門的な知識及び技能を有する者の人数(他部署との兼任を可とする。)	A	2	※一人以上の配置が必要です。
151				上記の相談支援に携わる者のうち、社会福祉士である者の人数	C	0	
152				上記の相談支援に携わる者のうち、精神保健福祉士である者の人数	C	0	
153		オ		緩和ケアチームに協力する、公認心理師等の医療心理に携わる専門的な知識及び技能を有する者の人数	B	0	
154				オの医療心理に携わる者のうち、公認心理師である者の人数	-	0	
155		カ		専任の細胞診断に係る業務に携わる専門的な知識及び技能を有する者の人数	A	3	※一人以上の配置が必要です。
156				上記の診療従事者のうち、細胞診断に関する専門資格を有する者の人数	C	2	
157		キ		がんのリハビリテーションに係る業務に携わる専門的な知識および技能を有する理学療法士、作業療法士、言語聴覚士等の人数	C	22	
158				がんのリハビリテーションに係る業務に携わる専門的な知識および技能を有する理学療法士の人数	C	12	
159				がんのリハビリテーションに係る業務に携わる専門的な知識および技能を有する作業療法士の人数	C	6	
160				がんのリハビリテーションに係る業務に携わる専門的な知識および技能を有する言語聴覚士の人数	C	4	
161		(3)	その他の環境整備等				
162		①		患者とその家族が利用可能なインターネット環境を整備している。	C	はい	別紙9に詳細を記載してください。
163		②		集学的治療等の内容や治療前後の生活における注意点等に関して、冊子や視聴覚教材等を用いてがん患者及びその家族が自主的に確認できる環境を整備している。	A	はい	
164				その冊子や視聴覚教材等はオンラインでも確認できる。	C	はい	
165		③		がん治療に伴う外見の変化について、がん患者及びその家族に対する説明やアビランスケアに関する情報提供・相談に応じられる体制を整備している。	A	はい	
166		④		がん患者の自殺リスクに対し、院内で共通したフローを使用し、対応方法や関係機関との連携について明確にしている。	A	はい	別紙14に詳細を記載してください。
167				対応方法や関係機関との連携について、関係職種に情報共有を行う体制を構築している。	A	はい	
168				自施設に精神科、心療内科等がある。	-	はい	
169				自施設でがん患者の自殺リスクに対応できる。	-	いいえ	
170				自施設に精神科、心療内科等がない場合は、地域の医療機関と連携体制を確保している。	A	はい	・自施設に精神科はあるが、自施設単体で対応できない場合も回答してください。 ・168・169がともに「はい」の場合には、未入力チェックのため、「はい」を選択してください。

様式4(機能別)

様式4(機能別)

11	指針の箇所	要件	要件区分	令和4年9月1日 時点の状況	備考欄
347	1	都道府県協議会における役割	-		
348		各都道府県の他の拠点病院等と協働して都道府県協議会を設置し、その運営に主体的に参画すること。	-		
349		その際、各がん医療圏におけるがん医療の質を向上させるため、当該がん医療圏を代表して都道府県協議会の運営にあたるとともに、都道府県協議会の方針に沿って各がん医療圏におけるがん医療が適切に提供されるよう努めること。	-		
350	2	診療体制	-		
351	(1)	診療機能	-		
352	①	集学的治療等の提供体制及び標準的治療等の提供	-		
353	ア	我が国に多いがんを中心として、グループ指定を受けるがん診療連携拠点病院と連携して集学的治療等を提供する体制を有するとともに、標準的治療等ががん患者の状態に応じた適切な治療を提供している。	-		別紙25に詳細を記載してください。
354	イ	確実な連携体制を確保するため、グループ指定を受けるがん診療連携拠点病院と定期的な合同のカンファレンスを開催している。	-		
355	ウ	医師からの診断結果、病状の説明時や治療方針の決定時には、以下の体制を整備している。	-		
356	i	患者とその家族の希望を踏まえ、看護師や公認心理師等が同席している。	-		
357	ii	治療プロセス全体に関して、患者とともに考えながら方針を決定している。	-		
358	iii	標準治療として複数の診療科が関与する選択肢がある場合に、その知見のある診療科の受診ができる体制を確保している。	-		
359	エ	診療機能確保のための支援等に関し、グループ指定を受けるがん診療連携拠点病院との人材交流計画を策定・実行している。	-		別紙26に詳細を記載してください。
360	オ	特に、集学的治療等を提供することが困難な場合における専門的な知識及び技能を有する医師等の定期的な派遣の依頼、専門外来の設置等に取り組んでいる。	-		別紙3に詳細を記載してください。
361	カ	がん患者の病態に応じた適切ながん医療を提供できるように以下のカンファレンスをそれぞれ必要に応じて定期的に開催している。	-		
362	i	個別病状は少数の診療科の医師を主体とした日常的カンファレンス	-		各診療科で日常的に開催している場合は「はい」を選択してください。
363	ii	個別病状は少数の診療科の医師に加え、看護師、薬剤師、必要に応じて公認心理師や緩和ケアチームを代表する者などを加えた、症例ごとのカンファレンス	-		各診療科で日常的に開催している場合は「はい」を選択してください。
364	iii	手術、放射線治療、放射線治療、薬物療法、病理診断及び緩和ケア等に携わる専門的な知識及び技能を有する医師とその他の専門を兼ねる医師等による、情報・意見交換・共有・検討・確認等を行うためのカンファレンス	-		1ヶ月当たりの開催回数を記載してください。(●回/月) ・詳細を別紙41に記載してください。
365	iv	臨床倫理的、社会的な問題を解決するための、具体的な事例に則した患者支援の充実や多職種間の連携強化を目的とした院内全体の多職種によるカンファレンス	-		1ヶ月当たりの開催回数を記載してください。(●回/月) ・詳細を別紙41に記載してください。
366	イ	ivのカンファレンスを定期的に開催している。	-		
367	カ	検討した内容について、診療録に記録の上、関係者間で共有している。	-		
368	キ	院内の緩和ケアチーム、口腔ケアチーム、栄養サポートチーム、感染防止対策チーム等の専門チームで、医師だけでなく、看護師や薬剤師等、がん医療の質を向上させるための連携が可能な体制を整備している。	-		
369		治療と並べて提供されるがん医療の仕組み及び役割は、実施、推進している。	-		
370		保険適用外の免疫療法等について、提供または推奨している場合は、上記のどの枠組みに該当するか明記すること。	-		
371	②	手術療法、放射線療法、薬物療法の提供体制の特記事項	-		
372		集学的治療等を適切に提供できる体制を整備する上で、適宜グループ指定を受けるがん診療連携拠点病院との連携により特に以下に対応すること。	-		
373	ア	我が国に多いがんに対する手術のうち、提供が困難であるものについてはグループ指定を受けるがん診療連携拠点病院との連携により提供できる体制を整備している。	-		
374	イ	グループ指定を受けるがん診療連携拠点病院と連携することにより術中迅速病理診断を提供できる体制を整備している。(なお、当該体制は遠隔病理診断でも可とする。)	-		
375	ウ	術中迅速病理診断	-		
376	エ	術後管理体制の一端として、手術部位感染に関するサーベイランスを実施している。	-		
377	イ	その際、厚生労働省院内感染対策サーベイランス事業(JANIS)へ登録している。	-		
378	エ	設備や人材配置の観点から放射線治療の提供が困難である場合には、グループ指定を受けるがん診療連携拠点病院と連携することにより放射線治療を提供できる体制を整備すること。	-		
379	オ	施設で放射線治療を提供している。	-		380が「いいえ」の場合、要件区分となります。
380	イ	グループ指定を受けるがん診療連携拠点病院と連携することにより放射線治療を提供できる体制を整備している。	-		379が「はい」の場合には、「いいえ」を選択してください。
381	ウ	関連する学会のガイドライン等も参考に、第三者機関による出力線量測定を行い、放射線治療の品質管理を行っている。	-		オについては、自施設で放射線治療を提供していない場合には「いいえ」を選択してください。
382	イ	●リニアックについて(※自施設で実施している場合のみ)	-		
383	ウ	直近で実施した第三者機関による出力線量測定の時期を明記すること。(YYYY/MM)	-		
384	イ	測定機関名を記入すること。	-		
385	ウ	基準線量の±5%の水準以内である。	-		
386	イ	●強度変調放射線治療について(※自施設で実施している場合のみ)	-		
387	ウ	直近で実施した第三者機関による出力線量測定の時期を明記すること。(YYYY/MM)	-		
388	イ	測定機関名を記入すること。	-		
389	ウ	基準線量の±5%の水準以内である。	-		
390	カ	外来化学療法を実施しているがん患者が急変時等の緊急時に入院できる体制を確保している。	-		
391	キ	免疫関連有害事象を含む有害事象に対して、他診療科や他病院と連携する等して対応している。	-		
392	ク	グループ指定を受けるがん診療連携拠点病院との連携により、薬物療法のレジメンを審査するとともに、標準的な薬物療法を提供できる体制を整備している。	-		
393	③	緩和ケアの提供体制	-		
394	ア	がん診療に携わる全ての診療従事者により、全てのがん患者に対し入院、外来を問わず日常診療の定期的な確認項目に組み込むなど幅広い苦痛の把握に努め、必要な緩和ケアの提供を行っている。	-		
395	イ	がん患者の身体的苦痛や精神的苦痛、社会的な問題等の把握及びそれらに対する適切な対応を、	-		
396	ウ	診断時から一貫して継続的に行っている。	-		
397	ウ	診断や治療方針の変更時には、ライフステージ、就学・就労、経済状況、家族との関係性等、がん患者とその家族にとって重要な問題について、患者の希望を踏まえ配慮や支援ができるよう努めている。	-		
398	イ	ア、イを実施するため、がん診療に携わる全ての診療従事者の対応能力を向上させることが必要であり、これを支援するために組織上明確に位置付けられた緩和ケアチームにより、以下を提供するよう体制を整備している。	-		別紙8に詳細を記載してください。
399	ii	定期的に病棟ラウンド及びカンファレンスを行い、依頼を受けていないがん患者も含めて苦痛の把握に努めるとともに、適切な症状緩和について協議し、必要に応じて主体的に動員や指導等を行っている。	-		
400	iii	(2)の2のイに掲示する看護師は、苦痛の把握の支援や専門的緩和ケアの提供に関する調整等、外来・病棟の看護業務を支援・強化する役割を担っている。	-		緩和ケア病棟を有している場合には、別紙6に詳細を記載してください。
401	エ	また、主治医及び看護師、公認心理師等と協働し、適切な支援を実施している。	-		
402	イ	患者が必要な緩和ケアを受けられるよう、緩和ケア外来の設置など外において専門的な緩和ケアを提供できる体制を整備している。	-		別紙5に詳細を記載してください。
403	ウ	自施設のがん患者に限らず、他施設でがん診療を受けている、または受けていない患者についても受入れを行っている。	-		
404	オ	緩和ケア外来等への患者紹介について、地域の医療機関に対して広報等を行っている。	-		
405	イ	医療用医薬等の経路薬の初回使用時や用量の増減時には、医師からの説明とともに薬剤師や看護師等により、外来・病棟を問わず医療用医薬等を自己管理できるよう指導している。	-		
406	ウ	その際には、自記式の服薬記録を整備活用している。	-		
407	カ	院内の診療従事者と緩和ケアチームとの連携を以下により確保すること。	-		
408	i	緩和ケアチームへがん患者の診療を依頼する手順	-		
409	ii	緩和ケアチームへがん患者の苦痛や精神的苦痛、社会的な問題等の把握及びそれらに対する適切な対応を、	-		
410	iii	緩和ケアチームへがん患者の診断や治療方針の変更時には、ライフステージ、就学・就労、経済状況、家族との関係性等、がん患者とその家族にとって重要な問題について、患者の希望を踏まえ配慮や支援ができるよう努めている。	-		
411	iv	また、主治医及び看護師、公認心理師等と協働し、適切な支援を実施している。	-		
412	イ	患者が必要な緩和ケアを受けられるよう、緩和ケア外来の設置など外において専門的な緩和ケアを提供できる体制を整備している。	-		
413	ウ	自施設のがん患者に限らず、他施設でがん診療を受けている、または受けていない患者についても受入れを行っている。	-		
414	オ	緩和ケア外来等への患者紹介について、地域の医療機関に対して広報等を行っている。	-		
415	イ	医療用医薬等の経路薬の初回使用時や用量の増減時には、医師からの説明とともに薬剤師や看護師等により、外来・病棟を問わず医療用医薬等を自己管理できるよう指導している。	-		
416	ウ	その際には、自記式の服薬記録を整備活用している。	-		
417	カ	院内の診療従事者と緩和ケアチームとの連携を以下により確保すること。	-		
418	i	緩和ケアチームへがん患者の診療を依頼する手順	-		
419	ii	緩和ケアチームへがん患者の苦痛や精神的苦痛、社会的な問題等の把握及びそれらに対する適切な対応を、	-		
420	iii	緩和ケアチームへがん患者の診断や治療方針の変更時には、ライフステージ、就学・就労、経済状況、家族との関係性等、がん患者とその家族にとって重要な問題について、患者の希望を踏まえ配慮や支援ができるよう努めている。	-		
421	iv	また、主治医及び看護師、公認心理師等と協働し、適切な支援を実施している。	-		
422	イ	患者が必要な緩和ケアを受けられるよう、緩和ケア外来の設置など外において専門的な緩和ケアを提供できる体制を整備している。	-		
423	ウ	自施設のがん患者に限らず、他施設でがん診療を受けている、または受けていない患者についても受入れを行っている。	-		
424	オ	緩和ケア外来等への患者紹介について、地域の医療機関に対して広報等を行っている。	-		
425	イ	医療用医薬等の経路薬の初回使用時や用量の増減時には、医師からの説明とともに薬剤師や看護師等により、外来・病棟を問わず医療用医薬等を自己管理できるよう指導している。	-		
426	ウ	その際には、自記式の服薬記録を整備活用している。	-		
427	カ	院内の診療従事者と緩和ケアチームとの連携を以下により確保すること。	-		
428	i	緩和ケアチームへがん患者の診療を依頼する手順	-		
429	ii	緩和ケアチームへがん患者の苦痛や精神的苦痛、社会的な問題等の把握及びそれらに対する適切な対応を、	-		
430	iii	緩和ケアチームへがん患者の診断や治療方針の変更時には、ライフステージ、就学・就労、経済状況、家族との関係性等、がん患者とその家族にとって重要な問題について、患者の希望を踏まえ配慮や支援ができるよう努めている。	-		
431	iv	また、主治医及び看護師、公認心理師等と協働し、適切な支援を実施している。	-		
432	イ	患者が必要な緩和ケアを受けられるよう、緩和ケア外来の設置など外において専門的な緩和ケアを提供できる体制を整備している。	-		
433	ウ	自施設のがん患者に限らず、他施設でがん診療を受けている、または受けていない患者についても受入れを行っている。	-		
434	オ	緩和ケア外来等への患者紹介について、地域の医療機関に対して広報等を行っている。	-		
435	イ	医療用医薬等の経路薬の初回使用時や用量の増減時には、医師からの説明とともに薬剤師や看護師等により、外来・病棟を問わず医療用医薬等を自己管理できるよう指導している。	-		
436	ウ	その際には、自記式の服薬記録を整備活用している。	-		
437	カ	院内の診療従事者と緩和ケアチームとの連携を以下により確保すること。	-		
438	i	緩和ケアチームへがん患者の診療を依頼する手順	-		
439	ii	緩和ケアチームへがん患者の苦痛や精神的苦痛、社会的な問題等の把握及びそれらに対する適切な対応を、	-		
440	iii	緩和ケアチームへがん患者の診断や治療方針の変更時には、ライフステージ、就学・就労、経済状況、家族との関係性等、がん患者とその家族にとって重要な問題について、患者の希望を踏まえ配慮や支援ができるよう努めている。	-		
441	iv	また、主治医及び看護師、公認心理師等と協働し、適切な支援を実施している。	-		
442	イ	患者が必要な緩和ケアを受けられるよう、緩和ケア外来の設置など外において専門的な緩和ケアを提供できる体制を整備している。	-		
443	ウ	自施設のがん患者に限らず、他施設でがん診療を受けている、または受けていない患者についても受入れを行っている。	-		
444	オ	緩和ケア外来等への患者紹介について、地域の医療機関に対して広報等を行っている。	-		
445	イ	医療用医薬等の経路薬の初回使用時や用量の増減時には、医師からの説明とともに薬剤師や看護師等により、外来・病棟を問わず医療用医薬等を自己管理できるよう指導している。	-		
446	ウ	その際には、自記式の服薬記録を整備活用している。	-		
447	カ	院内の診療従事者と緩和ケアチームとの連携を以下により確保すること。	-		
448	i	緩和ケアチームへがん患者の診療を依頼する手順	-		
449	ii	緩和ケアチームへがん患者の苦痛や精神的苦痛、社会的な問題等の把握及びそれらに対する適切な対応を、	-		
450	iii	緩和ケアチームへがん患者の診断や治療方針の変更時には、ライフステージ、就学・就労、経済状況、家族との関係性等、がん患者とその家族にとって重要な問題について、患者の希望を踏まえ配慮や支援ができるよう努めている。	-		
451	iv	また、主治医及び看護師、公認心理師等と協働し、適切な支援を実施している。	-		
452	イ	患者が必要な緩和ケアを受けられるよう、緩和ケア外来の設置など外において専門的な緩和ケアを提供できる体制を整備している。	-		
453	ウ	自施設のがん患者に限らず、他施設でがん診療を受けている、または受けていない患者についても受入れを行っている。	-		
454	オ	緩和ケア外来等への患者紹介について、地域の医療機関に対して広報等を行っている。	-		
455	イ	医療用医薬等の経路薬の初回使用時や用量の増減時には、医師からの説明とともに薬剤師や看護師等により、外来・病棟を問わず医療用医薬等を自己管理できるよう指導している。	-		
456	ウ	その際には、自記式の服薬記録を整備活用している。	-		
457	カ	院内の診療従事者と緩和ケアチームとの連携を以下により確保すること。	-		
458	i	緩和ケアチームへがん患者の診療を依頼する手順	-		
459	ii	緩和ケアチームへがん患者の苦痛や精神的苦痛、社会的な問題等の把握及びそれらに対する適切な対応を、	-		
460	iii	緩和ケアチームへがん患者の診断や治療方針の変更時には、ライフステージ、就学・就労、経済状況、家族との関係性等、がん患者とその家族にとって重要な問題について、患者の希望を踏まえ配慮や支援ができるよう努めている。	-		
461	iv	また、主治医及び看護師、公認心理師等と協働し、適切な支援を実施している。	-		
462	イ	患者が必要な緩和ケアを受けられるよう、緩和ケア外来の設置など外において専門的な緩和ケアを提供できる体制を整備している。	-		
463	ウ	自施設のがん患者に限らず、他施設でがん診療を受けている、または受けていない患者についても受入れを行っている。	-		
464	オ	緩和ケア外来等への患者紹介について、地域の医療機関に対して広報等を行っている。	-		
465	イ	医療用医薬等の経路薬の初回使用時や用量の増減時には、医師からの説明とともに薬剤師や看護師等により、外来・病棟を問わず医療用医薬等を自己管理できるよう指導している。	-		
466	ウ	その際には、自記式の服薬記録を整備活用している。	-		
467	カ	院内の診療従事者と緩和ケアチームとの連携を以下により確保すること。	-		
468	i	緩和ケアチームへがん患者の診療を依頼する手順	-		
469	ii	緩和ケアチームへがん患者の苦痛や精神的苦痛、社会的な問題等の把握及びそれらに対する適切な対応を、	-		
470	iii	緩和ケアチームへがん患者の診断や治療方針の変更時には、ライフステージ、就学・就労、経済状況、家族との関係性等、がん患者とその家族にとって重要な問題について、患者の希望を踏まえ配慮や支援ができるよう努めている。	-		
471	iv	また、主治医及び看護師、公認心理師等と協働し、適切な支援を実施している。	-		
472	イ	患者が必要な緩和ケアを受けられるよう、緩和ケア外来の設置など外において専門的な緩和ケアを提供できる体制を整備している。	-		
473	ウ	自施設のがん患者に限らず、他施設でがん診療を受けている、または受けていない患者についても受入れを行っている。	-		
474	オ	緩和ケア外来等への患者紹介について、地域の医療機関に対して広報等を行っている。	-		
475	イ	医療用医薬等の経路薬の初回使用時や用量の増減時には、医師からの説明とともに薬剤師や看護師等により、外来・病棟を問わず医療用医薬等を自己管理できるよう指導している。	-		
476	ウ	その際には、自記式の服薬記録を整備活用している。	-		
477	カ	院内の診療従事者と緩和ケアチームとの連携を以下により確保すること。	-		
478	i	緩和ケアチームへがん患者の診療を依頼する手順	-		
479	ii	緩和ケアチームへがん患者の苦痛や精神的苦痛、社会的な問題等の把握及びそれらに対する適切な対応を、	-		
480	iii	緩和ケアチームへがん患者の診断や治療方針の変更時には、ライフステージ、就学・就労、経済状況、家族との関係性等、がん患者とその家族にとって重要な問題について、患者の希望を踏まえ配慮や支援ができるよう努めている。	-		
481	iv	また、主治医及び看護師、公認心理師等と協働し、適切な支援を実施している。	-		
482	イ	患者が必要な緩和ケアを受けられるよう、緩和ケア外来の設置など外において専門的な緩和ケアを提供できる体制を整備している。	-		
483	ウ	自施設のがん患者に限らず、他施設でがん診療を受けている、または受けていない患者についても受入れを行っている。	-		
484	オ	緩和ケア外来等への患者紹介について、地域の医療機関に対して広報等を行っている。	-		
485	イ	医療用医薬等の経路薬の初回使用時や用量の増減時には、医師からの説明とともに薬剤師や看護師等により、外来・病棟を問わず医療用医薬等を自己管理できるよう指導している。	-		
486	ウ	その際には、自記式の服薬記録を整備活用している。	-		
487	カ	院内の診療従事者と緩和ケアチームとの連携を以下により確保すること。	-		
488	i	緩和ケアチームへがん患者の診療を依頼する手順	-		
489	ii	緩和ケアチームへがん患者の苦痛や精神的苦痛、社会的な問題等の把握及びそれらに対する適切な対応を、	-		
490	iii	緩和ケアチームへがん患者の診断や治療方針の変更時には、ライフステージ、就学・就労、経済状況、家族との関係性等、がん患者とその家族にとって重要な問題について、患者の希望を踏まえ配慮や支援ができるよう努めている。	-		
491	iv	また、主治医及び看護師、公認心理師等と協働し、適切な支援を実施している。	-		
492	イ	患者が必要な緩和ケアを受けられるよう、緩和ケア外来の設置など外において専門的な緩和ケアを提供できる体制を整備している。	-		
493	ウ	自施設のがん患者に限らず、他施設でがん診療を受けている、または受けていない患者についても受入れを行っている。	-		
494	オ	緩和ケア外来等への患者紹介について、地域の医療機関に対して広報等を行っている。	-		
495	イ	医療用医薬等の経路薬の初回使用時や用量の増減時には、医師からの説明とともに薬剤師や看護師等により、外来・病棟を問わず医療用医薬等を自己管理できるよう指導している。	-		
496	ウ	その際には、自記式の服薬記録を整備活用している。	-		
497	カ	院内の診療従事者と緩和ケアチームとの連携を以下により確保すること。	-		
498	i	緩和ケアチームへがん患者の診療を依頼する手順	-		
499	ii	緩和ケアチームへがん患者の苦痛や精神的苦痛、社会的な問題等の把握及びそれらに対する適切な対応を、	-		
500	iii	緩和ケアチームへがん患者の診断や治療方針の変更時には、ライフステージ、就学・就労、経済状況、家族との関係性等、がん患者とその家族にとって重要な問題について、患者の希望を踏まえ配慮や支援ができるよう努めている。	-		
501	iv	また、主治医及び看護師、公認心理師等と協働し、適切な支援を実施している。	-		
502	イ	患者が必要な緩和ケアを受けられるよう、緩和ケア外来の設置など外において専門的な緩和ケアを提供できる体制を整備している。	-		
503	ウ	自施設のがん患者に限らず、他施設でがん診療を受けている、または受けていない患者についても受入れを行っている。	-		
504	オ	緩和ケア外来等への患者紹介について、地域の医療機関に対して広報等を行っている。	-		
505	イ	医療用医薬等の経路薬の初回使用時や用量の増減時には、医師からの説明とともに薬剤師や看護師等により、外来・病棟を問わず医療用医薬等を自己管理できるよう指導している。	-		
506	ウ	その際には、自記式の服薬記録を整備活用している。	-		
507	カ	院内の診療従事者と緩和ケアチームとの連携を以下により確保すること。	-		
508	i	緩和ケアチームへがん患者の診療を依頼する手順	-		
509	ii	緩和ケアチームへがん患者の苦痛や精神的苦痛、社会的な問題等の把握及びそれらに対する適切な対応を、	-		
510	iii	緩和ケアチームへがん患者の診断や治療方針の変更時には、ライフステージ、就学・就労、経済状況、家族との関係性等、がん患者とその家族にとって重要な問題について、患者の希望を踏まえ配慮や支援ができるよう努めている。	-		
511	iv	また、主治医及び看護師、公認心理師等と協働し、適切な支援を実施している。	-		
512	イ	患者が必要な緩和ケアを受けられるよう、緩和ケア外来の設置など外において専門的な緩和ケアを提供できる体制を整備している。	-		
513	ウ	自施設のがん患者に限らず、他施設でがん診療を受けている、または受けていない患者についても受入れを行っている。	-		
514	オ	緩和ケア外来等への患者紹介について、地域の医療機関に対して広報等を行っている。	-		
515	イ	医療用医薬等の経路薬の初回使用時や用量の増減時には、医師からの説明とともに薬剤師や看護師等により、外来・病棟を問わず医療用医薬等を自己管理できるよう指導している。	-		
516	ウ	その際には、自記式の服薬記録を整備活用している。	-		
517	カ	院内の診療従事者と緩和ケアチームとの連携を以下により確保すること。	-		
518	i	緩和ケアチームへがん患者の診療を依頼する手順	-		
519	ii	緩和ケアチームへがん患者の苦痛や精神的苦痛、社会的な問題等の把握及びそれらに対する適切な対応を、	-		
520	iii	緩和ケアチームへがん患者の診断や治療方針の変更時には、ライフステージ、就学・就労、経済状況、家族との関係性等、がん患者とその家族にとって重要な問題について、患者の希望を踏まえ配慮や支援ができるよう努めている。	-		
521	iv	また、主治医及び看護師、公認心理師等と協働し、適切な支援を実施している。	-		
522	イ	患者が必要な緩和ケアを受けられるよう、緩和ケア外来の設置など外において専門的な緩和ケアを提供できる体制を整備している。	-		
523	ウ	自施設のがん患者に限らず、他施設でがん診療を受けている、または受けていない患者についても受入れを行っている。	-		
524	オ	緩和ケア外来等への患者紹介について、地域の医療機関に対して広報等を行っている。	-		
525	イ	医療用医薬等の経路薬の初回使用時や用量の増減時には、医師からの説明とともに薬剤師や看護師等により、外来・病棟を問わず医療用医薬等を自己管理できるよう指導している。	-		
526	ウ	その際には、自記式の服薬記録を整備活用している。	-		
527	カ	院内の診療従事者と緩和ケアチームとの連携を以下により確保すること。	-		
528	i	緩和ケアチームへがん患者の診療を依頼する手順	-		
529	ii	緩和ケアチームへがん患者の苦痛や精神的苦痛、社会的な問題等の把握及びそれらに対する適切な対応を、	-		
530	iii	緩和ケアチームへがん患者の診断や治療方針の変更時には、ライフステージ、就学・就労、経済状況、家族との関係性等、がん患者とその家族にとって重要な問題について、患者の希望を踏まえ配慮や支援ができるよう努めている。	-		
531	iv	また、主治医及び看護師、公認心理師等と協働し、適切な支援を実施している。	-		
532	イ	患者が必要な緩和ケアを受けられるよう、緩和ケア外来の設置など外において専門的な緩和ケアを提供できる体制を整備している。	-		
533	ウ	自施設のがん患者に限らず、他施設でがん診療を受けている、または受けていない患者についても受入れを行っている。	-		
534	オ	緩和ケア外来等への患者紹介について、地域の医療機関に対して広報等を行っている。	-		
535	イ	医療用医薬等の経路薬の初回使用時や用量の増減時には、医師からの説明とともに薬剤師や看護師等により、外来・病棟を問わず医療用医薬等を自己管理できるよう指導している。	-		
536	ウ	その際には、自記式の服薬記録を整備活用している。	-		
537	カ	院内の診療従事者と緩和ケアチームとの連携を以下により確保すること。	-		
538	i	緩和ケアチームへがん患者の診療を依頼する手順	-		
539	ii	緩和ケアチームへがん患者の苦痛や精神的苦痛、社会的な問題等の把握及びそれらに対する適切な対応を、	-		
540	iii	緩和ケアチームへがん患者の診断や治療方針の変更時には、ライフステージ、就学・就労、経済状況、家族との関係性等、がん患者とその家族にとって重要な問題について、患者の希望を踏まえ配慮や支援ができるよう努めている。	-		
541	iv	また、主治医及び看護師、公認心理師等と協働し、適切な支援を実施している。	-		
542	イ	患者が必要な緩和ケアを受けられるよう、緩和ケア外来の設置など外において専門的な緩和ケアを提供できる体制を整備している。	-		
543	ウ	自施設のがん患者に限らず、他施設でがん診療を受けている、または受けていない患者についても受入れを行っている。	-		
544	オ	緩和ケア外来等への患者紹介について、地域の医療機関に対して広報等を行っている。	-		
545	イ	医療用医薬等の経路薬の初回使用時や用量の増減時には、医師からの説明とともに薬剤師や看護師等により、外来・病棟を			

様式4(機能別)

様式4(機能別)の該当指定要件のAのうち満たしていない項目について

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

記載の有無
なし

病院名: 山梨県立中央病院

時期・期間: 令和4年9月1日時点

※様式4(機能別)の該当指定要件のAのうち満たしていない項目について、満たしていない項目とその理由と今後の見通し等について具体的に記載してください。
※通し番号については、様式4(機能別)シートのA列(左端)の番号を記入してください。
※令和4年9月2日以降に、要件の充足状況に変動があった場合には、別途、都道府県を通じて文書で厚生労働省健康局がん・疾病対策課へ届け出てください。

通し番号	令和4年9月1日時点で満たしていない要件 (通し番号を入力すれば、自動入力されます。)	現状の説明	充足見込み時期
例 125	専任の放射線診断に携わる専門的な知識及び技能を有する常勤の医師の人数	令和4年9月1日時点では専任の医師は配置できていない(兼任で配置している)。	令和5年3月1日段階での整備を行う予定である。
例 180	放射線治療のべ患者数 (基準:年間200人以上)	令和3年〇月〇日～令和3年〇月〇日までの期間、放射線治療機器の入れ替えを行ったため同期間の治療ができなかった。令和3年〇月〇日以降は通常通りの治療を行っている。また、直近1年間の治療実績は〇件であった。	令和4年は基準の治療数を達成できる見込み。
例 189	「がん等の診療に携わる医師等に対する緩和ケア研修会の開催指針」(平成29年12月1日付け健発1201第2号厚生労働省健康局長通知の別添)に準拠し、当該がん医療圏においてがん診療に携わる医師を対象とした緩和ケアに関する研修を、都道府県と協議の上、開催している。	今般の新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、予定していた緩和ケア研修会が中止となっている。	今後〇月にWebでの開催を予定している。
例 216	国立がん研究センターによるがん相談支援センター相談員基礎研修(1)～(3)を修了した専従及び専任の相談支援に携わる者をそれぞれ1人ずつ配置している。	今般の新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、受講を予定していた基礎研修(3)の研修会が中止となっている。	今後〇月に受講予定である。
例 244	国立がん研究センターが実施する研修で中級認定者の認定を受けている、専従の院内がん登録の実務を担う者を1人以上配置している。	今般の新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、受講を予定していた中級者認定試験が中止となっている。	今般の新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、受講を予定していた中級者認定試験が中止となっていたが、今後〇月に受験予定である。
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			

専門とするがんの診療状況

記載の有無

あり

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

病院名：山梨県立中央病院

時期・期間：令和3年1月1日～12月31日

我が国に多いがんと、希少がんを含むそれ以外のがんの各がん種において、

■診断および各種・各段階の治療における自施設の専門レベルを専門：◎、対応可：○、他施設へ紹介：△で記入してください。

・専門（◎）：当該がんを特に専門とする医師があり、周囲の施設から患者を積極的に集めている

・対応可（○）：積極的に患者を集めるわけではないが、自施設で標準的な対応（診断・治療）が可能

・他施設へ紹介（△）：他の施設に紹介することで対応している

■診断あるいはいずれかの治療について、「専門◎」、あるいは「対応可○」と記載した場合は、2020年、2021年の治療開始数（院内がん登録の、症例区分20, 21, 30）を、国立がん研究センターにおいて計算し提供しますので記入不要です。その際には、より詳細な区分で集計します。

■備考には、手術・放射線・薬物療法以外で行っている治療や特に当該がん種に関する窓口などがあれば、記載して下さい。

■「臨床試験の実績の有無」については、過去5年間の臨床試験の参加実績の有無についてご記入ください（有・無）。

■特に明記されていないところでは、各臓器でリンパ腫を除く各部位のがんについてお答えください。

注

専門＝当該がんを特に専門とする医師があり、当該がんの患者を積極的に集めているレベル

対応可＝当該がんの標準的な診断/治療が可能

臨床試験＝過去の参加実績であり、現在実施中であるかは問わない。I～Ⅲ相いずれでもよい。

↑記載必須

↑どれかに専門/対応可としたときは公開

	I記載必須						Iどれかに専門／対応可としたときは公開			
成人(15歳以上)	診断 (生検等)	専門◎／対応可○／他施設へ紹介△ 初発例への治療				臨床試験の 実績の有無	治療開始数		担当診療科 (複数記載可)	備考 公開の窓口・特記事項など
		手術	放射線	薬物療法	再発例 への治療		2020年	2021年		
脳腫瘍(リンパ腫以外)	◎	◎	◎	◎	◎	無	(良悪性を別に集計表示)		脳神経外科	
脳腫瘍(リンパ腫)	◎	◎	◎	◎	◎	無			脳神経外科	
脊髄腫瘍	◎	◎	◎	◎	◎	無			整形外科	
眼腫瘍(眼瞼以外)	○	△	◎	◎	○	無			眼科	
鼻腔・副鼻腔がん	◎	◎	◎	◎	◎	無			耳鼻咽喉科	
口腔がん	◎	◎	◎	◎	◎	有			耳鼻咽喉科	
咽頭がん(上・中・下)	◎	◎	◎	◎	◎	無	(上・中・下咽頭を別に集計表示)		耳鼻咽喉科	
喉頭がん	◎	◎	◎	◎	◎	無			耳鼻咽喉科	
唾液腺がん	◎	◎	◎	◎	◎	無			耳鼻咽喉科	
外耳道がん	○	△	△	△	△	無			耳鼻咽喉科	
頭頸部肉腫	○	△	△	△	△	無			耳鼻咽喉科	
甲状腺がん	◎	◎	◎	◎	◎	無			耳鼻咽喉科	
乳がん	◎	◎	◎	◎	◎	有			乳腺外科	
気管がん	◎	◎	◎	◎	◎	無			呼吸器外科	
非小細胞肺がん	◎	◎	◎	◎	◎	有			呼吸器内科	
小細胞肺がん	◎	◎	◎	◎	◎	有			呼吸器内科	
縦隔腫瘍(胸腺がん、胸腺腫)	◎	◎	◎	◎	◎	無	(胸腺がん、胸腺腫別に集計表示)		呼吸器外科	
縦隔胚細胞腫瘍	◎	◎	◎	◎	◎	無			呼吸器外科	
縦隔腫瘍(それ以外の腫瘍)	◎	◎	◎	◎	◎	無			呼吸器外科	
中皮腫(胸膜)	◎	◎	◎	◎	◎	無			呼吸器外科	
中皮腫(腹膜)	◎	◎	◎	◎	◎	無			呼吸器外科	
食道がん	◎	◎	◎	◎	◎	有			消化器外科	
胃がん	◎	◎	◎	◎	◎	有			消化器外科	
小腸がん	◎	◎	◎	◎	◎	無			消化器外科	
大腸がん(結腸・直腸)	◎	◎	◎	◎	◎	有			消化器外科	
肛門・肛門管がん	◎	◎	◎	◎	◎	無			消化器外科	
消化管間質性腫瘍(GIST)	◎	◎	◎	◎	◎	無			消化器外科	
消化管の神経内分泌腫瘍(NET／NEC)	◎	◎	◎	◎	◎	無	(NET,NECは別に集計表示)		消化器外科	
肝臓がん	◎	◎	◎	◎	◎	有			消化器外科	
胆のう・胆管がん	◎	◎	◎	◎	◎	無	(肝内、肝外を別に集計表示)		消化器外科	
すい臓がん(NET/NEC以外)	◎	◎	◎	◎	◎	無			消化器外科	
すい臓の神経内分泌腫瘍(NET／NEC)	◎	◎	◎	◎	◎	無	(NET,NECは別に集計表示)		消化器外科	
腹膜偽粘液腫(他のがんの腹膜播種を除く)	◎	◎	◎	◎	◎	無			消化器外科	
デスモイド腫瘍	◎	◎	◎	○	◎	無			消化器外科	
後腹膜肉腫	◎	◎	◎	◎	◎	無			泌尿器科・婦人科	
腎がん	◎	◎	◎	◎	◎	有			泌尿器科	
褐色細胞腫・傍神経節腫瘍(頭頸部以外)	◎	◎	◎	◎	◎	無			泌尿器科・糖尿病内	
副腎皮質がん	◎	◎	◎	◎	◎	無			泌尿器科	
腎盂尿管がん・膀胱がん	◎	◎	◎	◎	◎	有	(腎盂・尿管・膀胱は別に集計表示)		泌尿器科	
精巣腫瘍	◎	◎	◎	◎	◎	無			泌尿器科	
前立腺がん	◎	◎	◎	◎	◎	有			泌尿器科	
子宮頸がん(上皮性)	◎	◎	◎	◎	◎	無			婦人科	
子宮体がん(上皮性)	◎	◎	◎	◎	◎	有			婦人科	
子宮肉腫	◎	◎	◎	◎	◎	無			婦人科	
卵巣がん、卵管がん、腹膜がん(上皮性)	◎	◎	◎	◎	◎	有			婦人科	
卵巣胚細胞腫瘍	◎	◎	◎	◎	◎	無			婦人科	
外陰がん	◎	◎	◎	◎	◎	無			婦人科	
四肢・表在体幹の悪性軟部腫瘍	◎	◎	◎	◎	◎	無			整形外科	
四肢・表在体幹の悪性骨腫瘍	◎	◎	◎	◎	◎	無			整形外科	
皮膚の悪性黒色腫	◎	◎	◎	◎	◎	無			皮膚科	
皮膚がん(悪性黒色腫以外)	◎	◎	◎	◎	◎	無			皮膚科	
悪性リンパ腫	◎	◎	◎	◎	◎	無			血液内科	
急性白血病(骨髄性、リンパ性)	◎	△	◎	◎	◎	無			血液内科	
慢性白血病(骨髄性、リンパ性)	◎	△	◎	◎	◎	無			血液内科	
多発性骨髄腫	◎	◎	◎	◎	◎	無			血液内科	
原発不明がん	◎	◎	◎	◎	◎	無				
小児(15歳未満)	診断 (生検等)	専門◎／対応可○／他施設へ紹介△ 初発例への治療				臨床試験の 実績の有無	治療開始数		担当診療科 (複数記載可)	備考 公開の窓口・特記事項など
		手術	放射線	薬物療法	再発例 への治療		2020年	2021年		
小児脳腫瘍	○	○	○	△	△	無			小児科・小児外科	
小児眼腫瘍	△	△	○	△	△	無			小児科・小児外科	
小児悪性骨腫瘍	△	△	○	△	△	無			小児科・小児外科	
小児造血器腫瘍	△	△	○	△	△	無			小児科・小児外科	
小児固形腫瘍(脳・目・骨以外)	△	△	○	△	△	無			小児科・小児外科	

がん

我が国に多いがんに対して、自施設で対応しない診療内容

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

記載の有無
なし

病院名：山梨県立中央病院

時期・期間：令和4年9月1日時点

我が国に多いがんに対して、自施設で対応しない診療内容があれば、下の表に状況を記載してください。

我が国に多いがん	自施設で対応しない診療内容について、該当するがん種と治療法の組み合わせに"○"を入力してください。			自施設で対応していない診療内容についての連携先 (施設名・診療内容)
	手術療法	薬物療法	放射線療法	
(例)膵臓がん	○			手術を要する膵臓がん患者は、連携する××病院に紹介している。 手術後の薬物療法については、自施設で対応している。
大腸がん				
肺がん				
胃がん				
乳がん				
前立腺がん				
肝がん				
胆のう・胆管がん				
膵臓がん				

カンファレンスについて

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません

記載の有無
なし

病院名：山梨県立中央病院

時期・期間：令和4年9月1日時点

※この別紙は任意記載です。
整備指針Ⅱの2の(1)の①のウ及びⅥの2の(1)の①のオに定めるカンファレンスのうち、iii及びivについて記載してください。

iiiのカンファレンスについて、検討している症例・テーマ・参加する職種等について自由記載してください。
定期的な開催が現状難しい場合には、その理由を記載してください。

ivのカンファレンスについて、検討している症例・テーマ・参加する職種等について自由記載してください。
定期的な開催が現状難しい場合には、その理由を記載してください。

緩和ケア外来の状況

記載の有無

あり

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

病院名：山梨県立中央病院

時期・期間：令和4年9月1日時点

1	緩和ケア外来が設定されている（はい／いいえ）				はい	
2	緩和ケア外来の名称		緩和ケア科外来			
3	担当診療科名		緩和ケア科			
4	緩和ケア外来の頻度（〇回／週）		毎週月曜日、木曜日（木曜日は午後のみ）【完全予約制】			
5	主な診療内容・特色・アピールポイント		当院または他院の外来に通院中の方で、「現在がんによる症状で困っている」「緩和ケアについて相談したい」「緩和ケア病棟に入院したい」などの患者さんを対象に、外来に通院しながら症状を和らげる薬の調整を行ったり、緩和ケア病棟入院についてのご相談等に応じます。 また現在通院中の主治医の先生と相談しながら診療をしています。			
6	緩和ケア外来の説明が掲載されているページの見出しとアドレス	見出し	緩和ケア外来のご案内			
	※アドレスは、手入力せずにホームページからコピーしてください	アドレス	https://www.ych.pref.yamanashi.jp/departments/500/			
7	他施設でがんの診療を受けている、または、診療を受けていた患者さんを受け入れている（はい／いいえ）				はい	
8	■地域の患者さんやご家族向けの問い合わせ窓口が設定されている（はい／いいえ）				はい	
	窓口の名称		緩和ケアセンター または 患者支援センター			
	電話番号		055-253-7111	(内線)		
9	■地域の医療機関向けの問い合わせ窓口が設定されている（はい／いいえ）				はい	
	窓口の名称		緩和ケアセンター または 患者支援センター			
	電話番号		055-253-7111	(内線)		
	祝祭日、年末年始以外の休み（創立記念日など）		なし			
10	緩和ケア外来の状況 期間：令和3年1月1日～12月31日		以下については、自施設でがん診療を受けている患者について記載してください。			
			緩和ケア外来患者の年間新規診療患者数	246	人	
			緩和ケア外来患者の年間受診患者のべ数	951	人	
			以下については、緩和ケア外来受診まで自施設でがん診療を受けていなかった患者について記載してください			
			地域の医療機関からの年間新規紹介患者数	35	人	
			地域の医療機関からの年間受診患者のべ数	80	人	

緩和ケア病棟の状況

記載の有無

あり

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

病院名：山梨県立中央病院

時期・期間：令和4年9月1日時点

※緩和ケア病棟が設定されている場合に限り、「2」以降を記載してください。

1	緩和ケア病棟を有している	病棟があります																																									
2	緩和ケア病棟入院料の届出・受理	届け出て受理されている																																									
3	緩和ケア病棟の形式	院内病棟型																																									
4	緩和ケア病棟の病床数	15	床																																								
	緩和ケア病棟に入院した患者の申し込みから入院するまでの平均待機期間	2	日																																								
5	緩和ケア病棟の年間新入院患者数(令和3年1月1日～12月31日)	87	人																																								
	緩和ケア病棟の年間死亡患者数(令和3年1月1日～12月31日)	81	人																																								
6	緩和ケア病棟の説明が掲載されているページの見出しとアドレス	見出し	緩和ケア病棟																																								
	※アドレスは、手入力せずにホームページからコピーしてください。	アドレス	https://www.ych.pref.yamanashi.jp/about/340/																																								
7	緩和ケア病棟を担当するスタッフの職種・人数(人)	<table> <tr> <td>(例) 医師</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>医師</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>看護師</td> <td>19</td> </tr> <tr> <td>看護補助者</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>薬剤師</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>管理栄養士</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>作業療法士</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> </tr> </table>	(例) 医師	2	医師	2	看護師	19	看護補助者	1	薬剤師	1	管理栄養士	1	作業療法士	1									<table> <tr> <td>(例) 精神保健福祉士</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> </tr> </table>	(例) 精神保健福祉士	1																
(例) 医師	2																																										
医師	2																																										
看護師	19																																										
看護補助者	1																																										
薬剤師	1																																										
管理栄養士	1																																										
作業療法士	1																																										
(例) 精神保健福祉士	1																																										
8	■地域の患者さんやご家族向けの問い合わせ窓口が設定されている(はい/いいえ)		はい																																								
	窓口の名称	緩和ケアセンター または 患者支援センター																																									
	電話番号	055-253-7111	(内線) 3906 3912																																								
	問い合わせ窓口について掲載しているホームページ	見出し	緩和ケア病棟																																								
		アドレス	https://www.ych.pref.yamanashi.jp/about/340/																																								
9	■地域の医療機関向けの問い合わせ窓口が設定されている(はい/いいえ)		はい																																								
	窓口の名称	緩和ケアセンター または 患者支援センター																																									
	電話番号	055-253-7111	(内線) 3906 3912																																								
	問い合わせ窓口について掲載しているホームページ	見出し	緩和ケア病棟																																								
		アドレス	https://www.ych.pref.yamanashi.jp/about/340/																																								
10	緩和ケア病棟の設備	例: 家族用キッチン、家族室、談話室、ランドリー、デイルーム(食事や面会者との談話、ボランティアによるティーサービスがある)、特殊入浴室 デイルーム、談話コーナー、キッチン、展望風呂、家族控室																																									
11	訪問看護ケアの有無	例: 自施設で実施している、同一医療法人の施設で実施している、連携している訪問看護ケアステーションを紹介している、など 患者支援センターの協力のもと、山梨県内の訪問看護ステーションを紹介している。																																									

地域緩和ケア連携体制

記載の有無

あり

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

病院名：山梨県立中央病院

時点：令和4年9月1日時点

【緩和ケアに関する地域連携を推進するために、地域の施設が開催する多職種連携カンファレンスに参加した年間回数】

令和3年1月1日～12月31日 自施設が主催したもの(※共催を含む)

1 回

地域内の他施設が主催したもの

0回

注1) 多職種連携カンファレンスとは「地域全体の医療を推進するため地域医療を支える多施設かつ多職種の連携強化と顔の見える関係づくりを目的として、緩和ケアに関わる多職種の医療・介護従事者等が一堂に会する場」とする。

注2) 患者の退院支援カンファレンス等、患者個人の情報共有のために開催したカンファレンスは含まない。

【緊急緩和ケア病棟について(都道府県がん診療連携拠点病院のみ)】

・緊急緩和ケア病床数

1 床

・緊急緩和ケア病床の入院患者数(令和3年1月1日～12月31日)

37 人

【神経ブロックについて】

- ・難治性疼痛に対する神経ブロックについて、自施設で実施している。

はい

・神経ブロックの提供実施(令和3年1月1日～12月31日)

5人

【自施設で実施できない場合には、連携している医療機関名等、神経ブロックの提供における連携協力体制を記入】

医療圏内の緩和ケア病棟や在宅緩和ケアが提供できる診療所などのマップやリストを記載してください。
緩和ケアセンターを有する病院は、緊急入院体制の整備にあたり、連携協力を行っている在宅療養支援診療所等のリストについても記載すること。**※個人名やPHSの番号が記載されていないことをご確認ください。**

このシートに貼付することが難しい場合、ファイル名の頭に別紙7を付けた電子ファイル、別添資料を提出すること。

別添資料の提出有無

なし

(あり／なし)

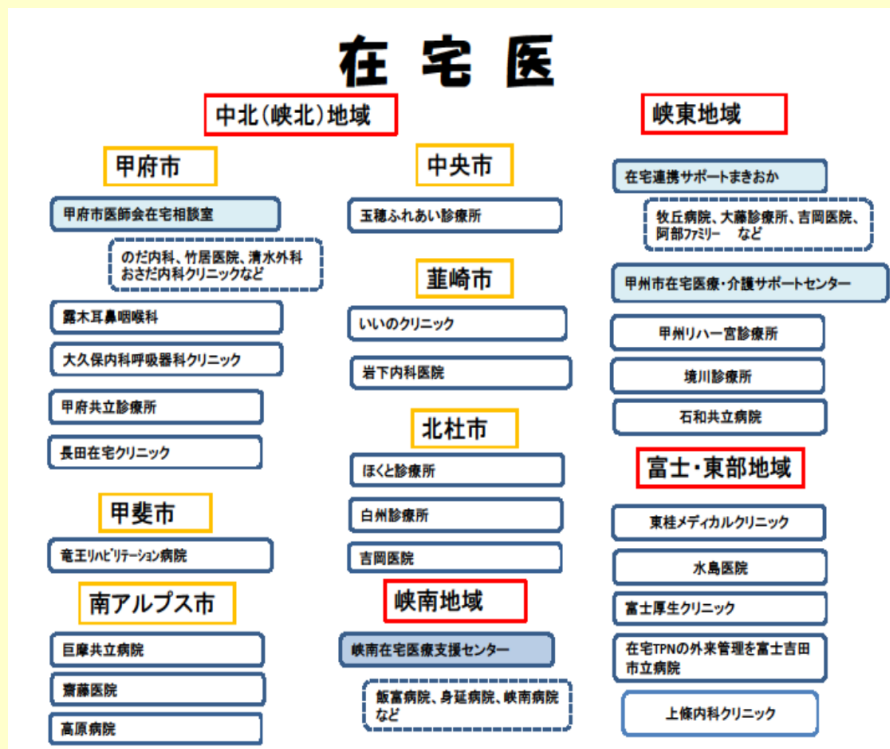
ファイル形式

(ワード／エクセル／パワーポイント／その他)

その他の場合ファイル形式を記載してください。

【医療圏内の緩和ケア病棟や在宅緩和ケアが提供できる診療所などのマップやリスト】

【緊急入院体制の整備にあたり、連携協力を行っている在宅療養支援診療所等のリスト】



緩和ケアチームのメンバー

記載の有無 あり

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

病院名： 山梨県立中央病院

期間： 令和4年9月1日時点

緩和ケアチームのメンバーについて記載してください。

- 注1) 様式4のIIの2の(2)診療従事者の回答と齟齬がないように記載してください。
- 注2) 研修医は除いてください。
- 注3) 常勤とは、原則として病院で定めた勤務時間の全てを勤務する者をいう。病院で定めた医師の1週間の勤務時間が、32時間未満の場合は、32時間以上勤務している者を常勤とし、その他は非常勤とする。

緩和ケアチームの医師について

	役割	人数	診療科の内訳
例	身体症状の緩和に携わる医師	3	麻酔科2名、消化器外科1名
1	身体症状の緩和に携わる医師	2	緩和ケア科2名
2	精神症状の緩和に携わる医師	1	精神科1名

医師以外の診療従事者について

	職種	常勤 /非常勤	専門資格(取得している場合)
例	管理栄養士	常勤	がん病態栄養専門管理栄養士
1	看護師	常勤	緩和ケア認定看護師
2	看護師	常勤	緩和ケア認定看護師
3	薬剤師	常勤	緩和薬物療法認定薬剤師
4	相談支援に携わる者	常勤	
5	相談支援に携わる者	常勤	
6	管理栄養士	常勤	
7	作業療法士	常勤	
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			

患者及び家族が利用可能なインターネット環境

記載の有無

あり

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

病院名： 山梨県立中央病院

時期・期間： 令和4年9月1日時点

1	患者が利用できるインターネット環境がある。	はい	(はい／いいえ)
	上記は無料で利用できる。	いいえ	(はい／いいえ)
2	患者の家族が利用できるインターネット環境がある。	はい	(はい／いいえ)
	上記は無料で利用できる。	いいえ	(はい／いいえ)
3	患者・家族がインターネットを利用できる場所について		
	ロビーで利用できる。	いいえ	(はい／いいえ)
	上記は無料で利用できる。	いいえ	(はい／いいえ)
	外来で利用できる。	いいえ	(はい／いいえ)
	上記は無料で利用できる。	いいえ	(はい／いいえ)
	個室でのみ利用できる。	いいえ	(はい／いいえ)
	上記は無料で利用できる。(※1)	いいえ	(はい／いいえ)
	個室又は大部屋に関わらず概ね全ての病室において利用できる。(※2)	はい	(はい／いいえ)
	上記は無料で利用できる。	いいえ	(はい／いいえ)
	インターネット環境が医療機器等に干渉しないよう、 各種のガイドラインを参照している。	いいえ	(はい／いいえ)
4	4が”はい”の場合に、参考としたガイドライン名を以下の欄に記入してください。		

※1 インターネット利用の有無で入院費が変動しない場合は”はい”を選択してください。

※2 集中治療室等の特定の病室を除く多数の病室において利用できる場合は「はい」を選択してください。

がん患者の特性に応じた支援

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

記載の有無

あり

病院名：山梨県立中央病院

時期・期間：令和4年9月1日時点

1	自施設でAYA世代のがん患者の支援を行っている	はい	(はい／いいえ)
	「はい」の場合は、自施設で行うことができる支援の内容を記載してください。		
	(例) AYA世代のがん患者の就労支援として月に●回の頻度で社労士の訪問を受けている。		
	希望時、ハローワーク就労支援ナビゲーターと連携、紹介 希望時、ピアサポーターとの面談調整 がん相談支援センターでの相談		
2	自施設でAYA世代のがん患者に関する支援が行えない場合は、患者を紹介する等、AYA世代の支援で連携する施設名を記載してください。		
3	多職種からなるAYA支援チームを設置している。	いいえ	(はい／いいえ)
	「はい」の場合は、AYA支援チーム構成員の職種を記載してください。		
4	自施設で、がん・生殖医療に関する意思決定支援を行うことができる 診療従事者の育成・配置を行っている。	はい	(はい／いいえ)
	「はい」の場合は、意思決定支援を行うことができる診療従事者の育成に関する取組状況を記載してください。		
	がん相談支援センターでは、県内拠点病院のがん相談支援センターと協力をし、妊孕性温存療法についての研修会を開催。生殖医療医の医師監修のもと、対応マニュアルを作成し、共有している。		
5	がん患者の妊孕性の温存に関する支援について、自施設もしくは連携施設への紹介で実施している場合に内容を記載してください。		
	妊孕性についてがん相談支援センターで相談対応を行っている。県内で妊孕性温存療法についてカウンセリング希望時や治療希望があるときは、主治医に依頼し対応。県内各がん相談支援センターで共通のマニュアル作成を行っているため、それに沿って他機関との連携を図っている。		
6	がん患者の就学に関する支援について自施設もしくは連携施設への紹介で実施している場合に内容を記載してください。		
	就学支援希望時には、他機関と連携を図っていく。		
7	がん患者の就業に関する支援について自施設もしくは連携施設への紹介で実施している場合に内容を記載してください。		
	希望時、ハローワーク就労支援ナビゲーターと連携、紹介を行っている。		
	希望時、山梨産業保健総合支援センターと連携を図っていく。		
8	がん患者のアビアランスケアに関する支援について自施設もしくは連携施設への紹介で実施している場合に内容を記載してください。		
	通院加療がんセンターでは、初回前にアビアランスケアについて情報提供を行っている。		
	冊子やサンプル展示し、相談対応を行っている。		
9	高齢のがん患者に関して、自施設で実施している機能評価体制について、記載してください。		

相談支援センターの相談件数と相談支援内容

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

記載の有無
あり

病院名: 山梨県立中央病院

期間: 令和3年1月1日～12月31日

※「自施設の患者・家族」とは、貴院で診療を受けている患者・家族、および以前に貴院で診療を受けた患者・家族のことをさしています。
「他施設の患者・家族」とは、貴院以外の医療機関で診療を受けている患者・家族、および以前に貴院以外の医療機関で診療を受けていた患者・家族のことをさしています。

●年間ののべ相談件数	1,287	件
上記1件あたりの平均対応時間 平均	15	分
●年間の自施設の新規患者の相談件数	504	件

1. 相談件数(新規相談件数に限る)

	相談者	計
1	自施設の患者・家族	740
2	1以外の患者・家族・地域住民等	11
3	他の医療機関等の職員	271
	合計	1,022

●以下の内容についてそれぞれ相談件数を記載してください。
※1回の相談で複数の内容について相談された場合は、それぞれの項目に計上して構いません。
なお、項目の番号については、厚生労働省研究費補助金「がん対策における進捗管理指標の策定と計測システムの確立に関する研究班」が作成した「相談記入シート」を参考にしています。
https://ganjoho.jp/med_pro/consultation/support/registration_sheet.html

	相談内容	件数	相談内容	件数
	01.がんの治療	220	17-1.社会生活(仕事・就労)	61
	02.がんの検査	78	17-2.社会生活(学業)	3
	03.症状・副作用・後遺症	338	18.医療費・生活費・社会保障制度	62
	03-01.妊孕性・生殖機能	8	19.補完・代替医療	5
	03-01.アピアランス	13	20.生きがい・価値観	31
	04.セカンドオピニオン(一般)	16	21.不安・精神的苦痛	319
	05.セカンドオピニオン(受け入れ)	10	22.告知	8
	06.セカンドオピニオン(他へ紹介)	32	23.医療者との関係・コミュニケーション	20
	07.治療実績	0	24.患者-家族間の関係・コミュニケーション	20
	08.臨床試験・先進医療	10	25.友人・知人・職場との関係・コミュニケーション	1
	09.受診方法	71	26.患者会・家族会(ピア情報)	21
	10.転院	23	88.不明	2
	11.医療機関の紹介	36	99.その他(下段に自由記載してください)	101
	12.がん予防・検診	10	ゲノムについて	48
	13.在宅医療	280	妊孕性温存療法について	2
	14.ホスピス・緩和ケア	84	グリーフケア	20
	15.食事・服薬・入浴・運動・外出など	49	遺伝カウンセリングについて	20
	16.介護・看護・養育	6	患者申出療養	5

がん相談支援センターの問い合わせ窓口・がん患者カウンセリングの設定

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

記載の有無

あり

病院名：山梨県立中央病院

時期・期間：令和4年9月1日時点

1	相談支援センターの名称	がん相談支援センター				
2	問い合わせ先電話番号	055-254-7851	(内線)	3912	1214	
3	■対面相談の実施（実施/未実施）	実施				
	予約の要否（必要/不要）	不要				
	■電話相談の実施（実施/未実施）	実施				
	電話番号	055-254-7851	(内線)	3912	1214	
	予約の要否（必要/不要）	不要				
4	■FAX相談の実施（実施/未実施）	未実施				
	FAX番号					
	■電子メール相談の実施（実施/未実施）	未実施				
	メールアドレス ※個人のメールアドレスは記載しないでください					

以下は、都道府県がん診療連携拠点病院の場合のみ記入してください。

1	がん患者カウンセリングが設定されている（はい/いいえ）		はい
2	外来の名称	①がん看護外来 ②心理相談（心理士による面談） ③遺伝カウンセリング	
3	主な内容・特色	①当院患者本人を対象に看護師によるカウンセリングを実施 ②当院患者本人、家族を対象に心理士によるカウンセリングを実施 ③遺伝性の疾患をもつ患者本人、その血縁者を中心に遺伝カウンセリングを実施	
4	外来の説明が掲載されているページの見出しとアドレス	見出し	①がん看護外来 ②心理相談（心理士による面談） ③遺伝カウンセリング
	※アドレスは、手入力せずにホームページからコピーしてください	アドレス	https://www.ych.pref.yamanashi.jp/wp-content/uploads/2019/07/GANKANGO-HP2021.pdf https://www.ych.pref.yamanashi.jp/department02/10530/ https://www.ych.pref.yamanashi.jp/department02/512/
5	■地域の患者・家族向けの問い合わせ窓口が設定されている（はい/いいえ）		はい
	窓口の名称	がん相談支援センター または 患者支援センター	
	電話番号	055-253-7111	(内線) 3912 1214
6	■地域の医療機関向けの問い合わせ窓口が設定されている（はい/いいえ）		はい
	窓口の名称	患者支援センター または がん相談支援センター	
	電話番号	055-253-7111	(内線) 1214 3912

がん相談支援センターの体制

記載の有無

あり

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

病院名： 山梨県立中央病院

時期・期間： 令和4年9月1日時点

注1) 様式4の回答と齟齬がないようにすること。

注2) 常勤とは、原則として病院で定めた勤務時間の全てを勤務する者をいう。病院で定めた医師の1週間の勤務時間が、32時間未満の場合は、32時間以上勤務している者を常勤とし、その他は非常勤とする。

注3) 「専従」および「専任」とは、当該医療機関における当該診療従事者が、「専従」については「8割以上」、「専任」については「5割以上」、当該業務に従事している者をいう。

■がん対策研究所による「相談支援センター相談員研修・基礎研修」について

対象者	人数
がん対策情報センターによる「相談支援センター相談員研修・基礎研修」(1)～(3)の修了者数	3
うち相談支援に携わる者の専任の人数(専任かつ専従でない者)	2
うち相談支援に携わる者の専従の人数	1
がん対策情報センターによる「相談支援センター相談員研修・基礎研修」(1)および(2)のみの修了者数	0
うち相談支援に携わる者の専任の人数(専任かつ専従でない者)	0
うち相談支援に携わる者の専従の人数	0
がん対策情報センターによる「相談支援センター相談員研修・基礎研修」(1)のみの修了者数	0
うち相談支援に携わる者の専任の人数(専任かつ専従でない者)	0
うち相談支援に携わる者の専従の人数	0
転院や退院調整の業務担当とは別に、がん相談に専従している相談支援センターの相談員数	1

■定期的な知識の更新のための研修等

対象者	人数
①がん相談支援センターに配置されている相談支援に携わる者のうち、がん対策研究所によるがん相談支援センター相談員継続研修を受講した人数	2
②相談支援に携わる者のうち、上記以外の研修を受講した人数	1
②の具体例	医療メディエーター研修会

■相談支援センターの体制について

※以下の1～6に該当する人数は必ず記載すること。その他の体制についてはそれぞれ記載すること。

※両立支援コーディネーター研修の受講は指定要件ではありません。事業の参考とさせていただきます。

※専従・専任・その他については、当該の相談支援に携わる者が8割以上当該業務に従事している場合には専従、5割以上8割未満の場合には専任、5割未満の場合にはその他としてください。

	職種	専従/専任/その他	人数	うち常勤の人数	両立支援コーディネーター研修を受講した人数
例	看護師	専従	3	2	3
例	社会福祉士	専任			
例	その他	その他			
1	社会福祉士	専従	0	0	0
2	社会福祉士	専任	0	0	0
3	社会福祉士	その他	0	0	0
4	精神保健福祉士	専従	0	0	0
5	精神保健福祉士	専任	0	0	0
6	精神保健福祉士	その他	0	0	0
7	看護師	専従	1	1	0
8	看護師	専任	2	2	0
9	看護師	その他	0	0	0
10					
11					
12					

■相談支援センターの体制の「職種」で「その他」を選んだ場合、下記に詳細を記入してください。

職種
例 ピアサポーター(上記リスト9番)
例 社会保険労務士(上記リスト12番)
1

2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	

■がん患者及びその家族が必ず一度はがん相談支援センターを訪問することができる体制

(必ずしも具体的な相談を伴わない、場所等の確認も含む)

がん患者及びその家族ががん相談支援センターを訪問できる体制に関する、具体的な取り組み状況を記入してください。

- ・医師からパンフレットを渡す
- ・医療従事者から紹介
- ・エントランスとがん相談支援センター部屋前の看板設置とパンフレット設置
- ・国がん作成の冊子へがん相談支援センターの連絡先、QRコード記載

■がん相談支援センターの業務内容について、相談者からフィードバックを得る体制

がん相談支援センターの業務内容について、相談者からフィードバックを得る体制に関する、具体的な取り組み状況を記入してください。

- ・患者満足度調査の実施

院内外のがん患者等からの相談に対応するための連携協力体制の状況

記載の有無

あり

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

病院名：山梨県立中央病院

時期・期間：令和4年9月1日時点

●就労に関する連携協力体制

- ①専門家による相談会の開催回数(令和3年1月1日～12月31日)
②専門家の職種(例:社労士、キャリアコンサルタント等を全て記載)

その他	
就労支援ナビゲーター	(複数回答可)

●アピアランスケアに関する連携協力体制

アピアランスに関する相談を院内で対応している

はい	(はい/いいえ)
通院加療がんセンター /がん相談支援センター	(複数回答可)
395	

院内でアピアランスケアに関する相談・支援を行っている部署

相談・支援の件数(がん相談支援センターでの件数は除く)

●がん患者の妊よう性温存に関する連携協力体制

- ①相談に対応している部署(例:がん相談支援センター、化学療法室等)

がん相談支援センター /がん看護外来	(複数回答可)
はい	(はい/いいえ)
はい	(はい/いいえ)
3	(期間:令和3年1月1日～12月31日)
はい	(はい/いいえ)
山梨大学医学部附属病院	(複数回答可)
いいえ	(はい/いいえ)
	(複数回答可)
はい	(はい/いいえ)
いいえ	(はい/いいえ)
はい	(はい/いいえ)

①-1意思決定支援に関わる医療従事者による相談会を院内で実施している

①-2意思決定支援に関わる医療従事者による相談を院外の施設に依頼している

- ②がん患者の妊よう性温存のための生殖医療を専門とする施設へ紹介した患者の人数

- ③自治体のがん・生殖医療ネットワークを通じて、生殖医療を専門とする施設に紹介している

③-1紹介先施設名(複数回答可)

- ④他の自治体のがん・生殖医療ネットワークを通じて、生殖医療を専門とする施設に紹介している

④-1紹介先施設名(複数回答可)

- ⑤意思決定支援に関わる人材育成を実施している(「いいえ」の場合は⑤-1、⑤-2は「いいえ」を記入ください。)

⑤-1研修会を院内で実施している

⑤-2学会等の研修会への参加を励行している

●がん患者の自殺リスクに対する体制

院内で自殺リスクに対する研修を開いている。

いいえ	(はい/いいえ)
-----	----------

●患者サロン等の開催状況(令和3年1月1日～12月31日)

- ①患者サロンの開催件数

0
0
0
0

- ②患者会の開催件数

②-1患者会のうち、オンラインで開催した件数

- ③サポートグループが主催した研修の開催件数

●患者団体との連携協力体制

※患者団体の参加対象者が特定の疾患に限られていない場合には、「すべてのがん」と記載してください。

※「紹介の可否」には、患者さんや家族から、その団体について問い合わせがあった際、具体的な紹介ができるかどうかについて記載してください。

	連携協力しているがん患者団体		具体的な連携協力の内容	紹介の可否
	団体名	参加対象者の疾患名		
例	〇〇〇〇〇会	造血器腫瘍	患者会と共同で、月1回、患者サロンを開催している。	可
例	〇〇〇〇〇会	乳がん	相談支援センターで、週1回、2名ずつ、ピアサポーターとして活動してもらっている。	可
例	〇〇〇〇〇会	すべてのがん	年4回開催している市民講演会の開催への協力、また、演者として参加してもらっている。	不可
1	山梨まんまくらぶ	乳がん	定期開催セミナー等の協力	可
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				
9				

10				
11				
12				

がんの診療に関連した専門外来の問い合わせ窓口

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

記載の有無

あり

病院名：山梨県立中央病院

時期・期間：令和4年9月1日時点

※ がん診療に関連した専門外来の「対象となる疾患名」の項目は、以下の表の疾患名を用いて記載してください。
表の中に、該当する病名がない場合は、その病名を直接記載してください。
また、すべてのがん種が対象となる場合は、「**すべてのがん**」と記載してください。
※ がん患者カウンセリングについては、**別紙12の下段**に記載してください。

頭部／頸部	消化管	泌尿器	女性	その他
脳腫瘍 脊髄腫瘍 眼・眼窩腫瘍 口腔がん 咽頭がん・喉頭がん甲状腺がん	食道がん 胃がん 小腸がん 大腸がん GIST	腎がん 尿路がん 膀胱がん 副腎腫瘍	子宮頸がん・子宮体がん 卵巣がん その他の女性生殖器がん	後腹膜・腹膜腫瘍 性腺外胚細胞腫瘍 原発不明がん
胸部	肝臓 ／胆道 ／膵臓	男性	皮膚／骨と軟部組織	小児
肺がん 乳がん 縦隔腫瘍 中皮腫	肝がん 胆道がん 膵がん	前立腺がん 精巣がん その他の男性 生殖器がん	皮膚腫瘍 悪性骨軟部腫瘍 血液・リンパ 造血器腫瘍	小児脳腫瘍 小児の眼・眼窩腫瘍 小児悪性骨軟部腫瘍 その他の小児固形腫瘍 小児造血器腫瘍

1. 【 ストーマ外来 】の問い合わせ窓口

1	ストーマ外来が設定されている（はい/いいえ）	はい
2	上記外来の名称	ストーマ外来
3	対象となるストーマの種類	コロストーマとウロストーマ
4	対象となる疾患名	大腸がん、膀胱がん
5	主な診療内容・特色	ストーマ（人工肛門、人口膀胱）増設後の定期的なフォローアップやストーマ周囲の皮膚トラブルへの対処法など、ストーマ保有者の方が安心して日常生活が送れるよう支援します。
6	ストーマ外来の説明が掲載されているページの見出しとアドレス	見出し ストーマ外来のご案内 アドレス https://www.ych.pref.yamanashi.jp/department02/1528/
7	他施設でがんの診療を受けている、または、診療を受けていた患者さんを受け入れている（はい/いいえ）	はい
8	■地域の患者・家族向けの問い合わせ窓口が設定されている（はい/いいえ）	はい
	窓口の名称	外科外来、泌尿器外来、小児外科外来
	電話番号	055-253-7111 (内線)
9	■地域の医療機関向けの問い合わせ窓口が設定されている（はい/いいえ）	はい
	窓口の名称	外科外来、泌尿器外来、小児外科外来
	電話番号	055-253-7111 (内線)

2. 【 リンパ浮腫外来 】の問い合わせ窓口

1	リンパ浮腫外来が設定されている		はい	(はい/いいえ)				※リンパ浮腫の研修修了者とは、厚生労働省後援のがんのリハビリテーション研修におけるリンパ浮腫研修運営委員会が策定した、「専門的なリンパ浮腫研究に関する教育要綱」にそった研修(講義45時間以上)を修了した医療従事者のことをいう。			
2	研修を修了した担当者が配置されている※		はい	(はい/いいえ)							
3	上記外来の名称		リンパ浮腫外来								
4	対象となる疾患名		乳がん、子宮がん、膀胱がん、前立腺がん								
5	リンパ浮腫の診療担当科		形成外科								
6	リンパ浮腫の入院治療に対応している		対応している	(対応している/対応していない)							
7	主な診療内容・特色		リンパ浮腫外来は、主にマッサージと圧迫療法でむくみを改善することを目的としており、ご自身やご家族が自宅でケアができるようにお手伝いします。								
8	リンパ浮腫外来の説明が掲載されているページの見出しとアドレス	見出し	リンパ浮腫外来のご案内								
	※アドレスは、手入力せずにホームページからコピーしてください	アドレス	https://www.ych.pref.yamanashi.jp/department02/1527/								
9	他施設でがんの診療を受けている、または診療を受けていた患者さんを受け入れている (はい/いいえ)									はい	
10	■地域の患者・家族向けの問い合わせ窓口が設定されている (はい/いいえ)									はい	
	窓口の名称		形成外科外来								
	電話番号		055-253-7111	(内線)							
11	■地域の医療機関向けの問い合わせ窓口が設定されている (はい/いいえ)									はい	
	窓口の名称		形成外科外来								
	電話番号		055-253-7111	(内線)							

3. 【禁煙外来】の問い合わせ窓口

1	禁煙外来が設定されている (はい/いいえ)									はい
2	上記外来の名称		禁煙外来							
3	主な診療内容・特色		禁煙したくてもやめられない・・・禁煙に挑戦しても、また吸ってしまうのはなぜ?・・・それは、たばこに含まれるニコチンが強い依存性を持っているからです。タバコはがん、COPD、脳梗塞、心筋梗塞などの危険因子となっており、禁煙なしにはこれらの病気の予防や治療が始まらないといっても過言ではありません。 禁煙は「ニコチン依存症」という病気で、治療が必要な病気とされています。2006年からは禁煙治療が保険診療(条件あり)で受けられるようになりました。当院では、医師、看護師、薬剤師がタバコをやめたい方にあった禁煙サポートをいたします。							
4	禁煙外来の説明が掲載されているページの見出しとアドレス	見出し	病院で禁煙							
	※アドレスは、手入力せずにホームページからコピーしてください	アドレス	https://www.ych.pref.yamanashi.jp/department01/1086/							
5	他施設でがんの診療を受けている、または診療を受けていた患者さんを受け入れている (はい/いいえ)									はい
6	■地域の患者・家族向けの問い合わせ窓口が設定されている (はい/いいえ)									はい
	窓口の名称		禁煙外来							
	電話番号		055-253-7111	(内線)						
7	■地域の医療機関向けの問い合わせ窓口が設定されている (はい/いいえ)									はい
	窓口の名称		禁煙外来							
	電話番号		055-253-7111	(内線)						

4. 【アスベスト外来】の問い合わせ窓口

1	アスベスト外来が設定されている (はい/いいえ)									いいえ
2	上記外来の名称									
3	主な診療内容・特色									

4	アスベスト外来の説明が掲載されているページの見出しとアドレス	見出し				
	※アドレスは、手入力せずにホームページからコピーしてください	アドレス				
5	他施設でがんの診療を受けている、または診療を受けていた患者さんを受け入れている（はい/いいえ）					いいえ
6	■地域の患者・家族向けの問い合わせ窓口が設定されている（はい/いいえ）					いいえ
	窓口の名称					
	電話番号			(内線)		
7	■地域の医療機関向けの問い合わせ窓口が設定されている（はい/いいえ）					いいえ
	窓口の名称					
	電話番号			(内線)		

5. 遺伝性腫瘍に関連した専門外来の問い合わせ窓口

1	遺伝性腫瘍外来が設定されている（はい/いいえ）					はい
2	上記外来の名称		遺伝性乳癌・卵巣癌症候群や大腸癌(Lynch症候群)			
3	主な診療内容・特色		胚細胞系遺伝子(生まれつきの遺伝子)変異の検査を受ける際に必要な遺伝の知識 倫理・社会的な問題についての理解を得るために必要なカウンセリングです。現在は必要な患者さんにつき日程を調整しカウンセリングを行う体制です。			
4	遺伝性腫瘍外来の説明が掲載されているページの見出しとアドレス ※アドレスは、手入力せずにホームページからコピーしてください	見出し	遺伝カウンセリング			
		アドレス	https://www.ych.pref.yamanashi.jp/department02/512/			
5	他施設でがんの診療を受けている、または診療を受けていた患者さんを受け入れている（はい/いいえ）					はい
6	■地域の患者・家族向けの問い合わせ窓口が設定されている（はい/いいえ）					はい
	窓口の名称		ゲノム相談『電話ホットライン』			
	電話番号		055-253-7111	(内線)	3912	
7	■地域の医療機関向けの問い合わせ窓口が設定されている（はい/いいえ）					はい
	窓口の名称		ゲノム相談『電話ホットライン』			
	電話番号		055-253-7111	(内線)	3912	

6. その他のがん診療に関連した専門外来の問い合わせ窓口

1) 外来の問い合わせ窓口 ※枠内に専門外来の名称を記載してください

1	対象となる疾患名					
2	主な診療内容・特色					
3	上記の外来の説明が掲載されているページの見出しとアドレス ※アドレスは、手入力せずにホームページからコピーしてください	見出し				
		アドレス				
4	他施設でがんの診療を受けている、または診療を受けていた患者さんを受け入れている（はい/いいえ）					
5	■地域の患者・家族向けの問い合わせ窓口が設定されている（はい/いいえ）					
	窓口の名称					
	電話番号			(内線)		

6	■地域の医療機関向けの問い合わせ窓口が設定されている（はい/いいえ）				
	窓口の名称				
	電話番号		(内線)		

2) 外来の問い合わせ窓口 ※枠内に専門外来の名称を記載してください

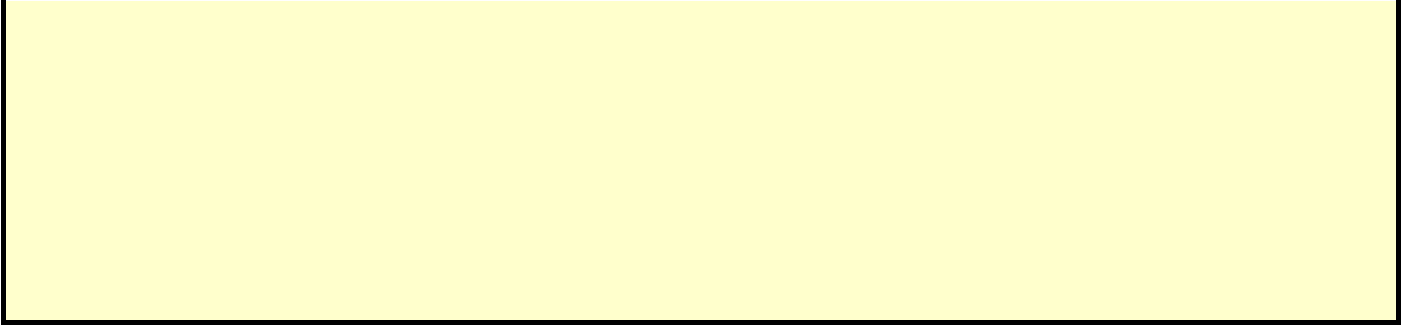
1	対象となる疾患名				
2	主な診療内容・特色				
3	上記の外来の説明が掲載されているページの見出しとアドレス	見出し			
	※アドレスは、手入力せずにホームページからコピーしてください	アドレス			
4	他施設でがんの診療を受けている、または診療を受けていた患者さんを受け入れている（はい/いいえ）				
5	■地域の患者・家族向けの問い合わせ窓口が設定されている（はい/いいえ）				
	窓口の名称				
	電話番号		(内線)		
6	■地域の医療機関向けの問い合わせ窓口が設定されている（はい/いいえ）				
	窓口の名称				
	電話番号		(内線)		

3) 外来の問い合わせ窓口 ※枠内に専門外来の名称を記載してください

1	対象となる疾患名				
2	主な診療内容・特色				
3	上記の外来の説明が掲載されているページの見出しとアドレス	見出し			
	※アドレスは、手入力せずにホームページからコピーしてください	アドレス			
4	他施設でがんの診療を受けている、または診療を受けていた患者さんを受け入れている（はい/いいえ）				
5	■地域の患者・家族向けの問い合わせ窓口が設定されている（はい/いいえ）				
	窓口の名称				
	電話番号		(内線)		
6	■地域の医療機関向けの問い合わせ窓口が設定されている（はい/いいえ）				
	窓口の名称				
	電話番号		(内線)		

1 追加で記載を希望する外来がある場合には、以下に疾患名等の情報を自由に記載してください。

--	--	--	--	--



院内がん登録部門の体制

記載の有無

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

あり

病院名： 山梨県立中央病院

時期・期間： 令和4年9月1日時点

※院内がん登録業務に携わっているスタッフを記載してください。

注1) 様式4の回答と齟齬がないようにすること。

注2) 常勤とは原則として病院で定めた勤務時間の全てを勤務する者をいう。病院で定めた医師の1週間の勤務時間が、32時間未満の場合は、32時間以上勤務している者を常勤とし、その他は非常勤とする。

注3) 「専従」および「専任」とは、当該医療機関における当該診療従事者が、「専従」については「8割以上」、「専任」については「5割以上」、当該業務に従事している者をいう。

	資 格	診療情報管理業務の 経験年数 (年)	院内がん登録業務の 経験年数 (年)	常勤 /非常勤	院内がん登録業務 についての 専従/専任/その他	がん対策情報センターによる院内がん登録 実務 初級者研修会・中級者研修会の修了状況 研修会名・受講状況
例	診療情報管理士	4	2	常勤	専従(8割以上)	初級認定者(みなし含む)
例	なし	1	1	非常勤	専任(5割以上8割未満)	初級認定試験・受験なし
1	診療情報管理士	7	7	常勤	専従(8割以上)	中級認定者
2	診療情報管理士	8	6	常勤	専従(8割以上)	中級認定者
3						
4						
5						
6						
7						
8						
9						
10						
11						
12						
13						
14						

15						
----	--	--	--	--	--	--

臨床試験・治験の実施状況および問い合わせ窓口

記載の有無

あり

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

病院名：山梨県立中央病院

1. 臨床試験・治験の問い合わせ窓口

令和4年9月1日時点

1) 【臨床試験(治験を除く)】の問い合わせ窓口

■臨床試験に参加していない地域の患者さんやご家族向けの問い合わせ窓口の有無について		臨床試験専用の窓口がある				
※臨床試験専用の窓口がある場合に限り、以下の表に記載してください。						
問い合わせへ対応している方法に○をつけてください。		窓口	電話	○	FAX	電子メール
窓口の名称		臨床研究・ゲノム研究事務局				
1	上記の窓口の説明が掲載されているページの見出しとアドレス ※アドレスは、手入力せずにホームページからコピーしてください	見出し	臨床研究・ゲノム研究部門			
	アドレス	https://www.ych.pref.yamanashi.jp/department02/493/				
電話番号		055-253-7111	(内線)			

■臨床試験に参加していない地域の医療機関向けの問い合わせ窓口について		臨床試験専用の窓口がある				
※臨床試験専用の窓口がある場合に限り、以下の表に記載してください。						
問い合わせへ対応している方法に○をつけてください。		窓口	電話	○	FAX	電子メール
窓口の名称		臨床研究・ゲノム研究事務局				
2	上記の窓口の説明が掲載されているページの見出しとアドレス ※アドレスは、手入力せずにホームページからコピーしてください	見出し	臨床研究・ゲノム研究部門			
	アドレス	https://www.ych.pref.yamanashi.jp/department02/493/				
電話番号		055-253-7111	(内線)			

2) 【治験】の問い合わせ窓口

■治験に参加していない地域の患者さんやご家族向けの問い合わせ窓口について		治験専用の窓口がある				
※治験専用の窓口がある場合に限り、以下の表に記載してください。						
問い合わせへ対応している方法に○をつけてください。		窓口	電話	○	FAX	電子メール
窓口の名称		治験事務局				
1	上記の窓口の説明が掲載されているページの見出しとアドレス ※アドレスは、手入力せずにホームページからコピーしてください	見出し	治験部門			
	アドレス	https://www.ych.pref.yamanashi.jp/department02/494/				
電話番号		055-253-7111	(内線)			

■治験に参加していない地域の医療機関向けの問い合わせ窓口について		治験専用の窓口がある				
※治験専用の窓口がある場合に限り、以下の表に記載してください。						
問い合わせへ対応している方法に○をつけてください。		窓口	電話	○	FAX	電子メール
窓口の名称		治験事務局				
2	上記の窓口の説明が掲載されているページの見出しとアドレス ※アドレスは、手入力せずにホームページからコピーしてください	見出し	治験部門			
	アドレス	https://www.ych.pref.yamanashi.jp/department02/494/				
電話番号		055-253-7111	(内線)			

医療の質の改善の取組について

記載の有無

あり

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

病院名: 山梨県立中央病院

時期・期間: 令和4年9月1日時点

QI研究への参加状況

国立がん研究センターのQI研究に参加している

はい

■自施設の診療機能や診療実績、地域連携に関する実績や活動状況の他、患者QOLについて把握・評価し、課題認識を院内の関係者で共有した上で、組織的な改善策を講じる体制について、必要に応じて図表などを活用し、具体的に記載すること。

このシートに貼付することが難しい場合、**ファイル名の頭に別紙19を付けた**電子ファイル、別添資料を提出すること。

別添資料の提出有無

なし

(あり/なし)

ファイル形式

(ワード/エクセル/パワーポイント/その他)

その他の場合ファイル形式を記載してください。

【自施設の診療機能や診療実績、地域連携に関する実績や活動状況の他、患者QOLについて把握・評価し、課題認識を院内の関係者で共有した上で、組織的な改善策を講じる体制】

院内での取り組み

○月1回開催するがんセンター局のミーティングでは、PDCAサイクルを利用してそれぞれの課題を検討し、実行に移していくことでがん診療体制の改善を図っている。

<Plan(計画)→ Do(実行)→ Check(評価)→ Act(改善)>

県内での取り組み

○医療機関間での定期的な実地調査による相互評価(ピアレビュー)を実施

○会議や研修会での相互評価

○山梨県がん診療連絡協議会の役割

・県内地域拠点病院等のPDCAサイクル確保体制を推進

・診療機能や診療体制、診療実績、地域連携に関する実績や活動状況の取りまとめ

○がん診療の質の向上を目指したPDCAサイクル確保で活用している方法

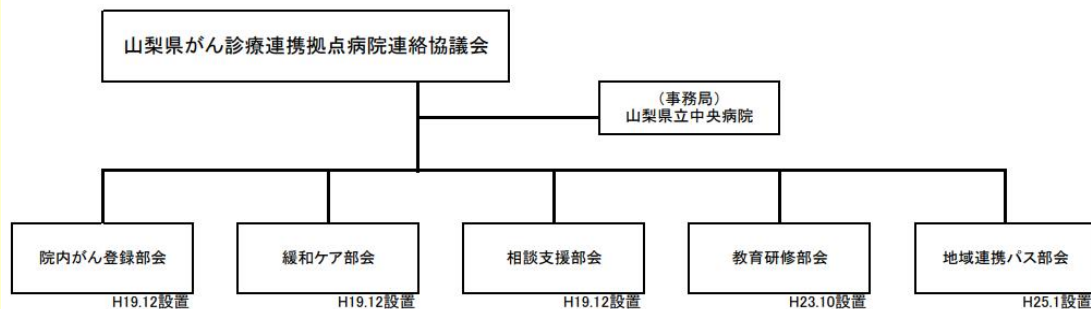
・現況報告書を用いて拠点病院間の情報を共有

・院内がん登録データを用いて情報を共有

・がん診療評価指標(Quality Indicator)の研究に参加

・病院間の相互訪問による実地調査

山梨県がん診療連携拠点病院連絡協議会 各部会の位置づけ



医療安全管理等の体制について

記載の有無

あり

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

病院名：

山梨県立中央病院

時期・期間： 令和4年9月1日時点

①ー1 医療安全管理部門が配置されている。

はい

 (はい/いいえ)

①ー2 医療安全管理部門がある場合に、そのメンバーについて記載してください。(①ー1が”はい”の場合のみ、①ー2に回答してください。)

注1) 研修医は除いてください。

注2) 常勤とは、原則として病院で定めた勤務時間の全てを勤務する者をいう。病院で定めた医師の1週間の勤務時間が、32時間未満の場合は、32時間以上勤務している者を常勤とし、その他は非常勤とする。

注3) 「専従」および「専任」とは、当該医療機関における当該診療従事者が「専従」については「8割以上」、「専任」については「5割以上」、当該業務に従事している者をいいます。

注4) 「医療安全管理者の業務指針および養成のための研修プログラム作成指針」(平成19年3月30日付け医政発0330019号厚生労働省医政局長通知及び薬食発第0330009号厚生労働省医薬食品局長通知)に基づく研修を想定しています。

	職種	常勤 /非常勤	専従/専任/その他	医療安全に関する研修の受講状況(注4)		
				受講した研修名	研修主催者名	修了日
1	部門長 看護師	常勤	専従(8割以上)	医療安全管理者養成研修	公益社団法人群馬県看護協会	2018.12.16
2	看護師	常勤	専従(8割以上)	医療安全管理者育成講習会	日本病院会	2019.12.14
3	医師	常勤	兼任(5割未満)	医療安全管理者育成講習会	日本病院会	2019.12.14
4	医師	常勤	兼任(5割未満)	医療安全管理者育成講習会	日本病院会	2021.12.4
5	薬剤師	常勤	兼任(5割未満)	医療安全管理者育成講習会	日本病院会	2021.12.4
6	医師	常勤	兼任(5割未満)			
7	看護師	常勤	専任(5割以上8割未満)			
8	その他	常勤	兼任(5割未満)			
9	その他	常勤	兼任(5割未満)			
10						

■上記一覧において「その他」を選んだ場合、下記に詳細を記入してください。

	職種
例	臨床工学技士(上記リスト6番)
1	事務担当者(上記リスト8番、9番)
2	
3	
4	
5	

②第三者による評価に関する状況について記載してください。

	活用した第三者評価	最終評価日	有効期間 (定められている場合のみ記)
例	JCI	平成30年〇月〇〇日	令和5年〇月〇〇日
例	ISO9001	令和元年〇月〇〇日	令和6年〇月〇〇日
例	日本医療機能評価機構 病院機能評価	平成29年〇月〇〇日	令和6年〇月〇〇日
1	日本医療機能評価機構 病院機能評価	令和1年7月12日	令和6年7月21日
2	医療安全対策地域連携加算での医療機関間の実地調査 (市立甲府病院と実施)	令和4年12月9日 予定	
3	医療安全対策地域連携加算での医療機関間の実地調査 (山梨病院と実施)	令和4年12月 予定	
4	医療安全対策地域連携加算での医療機関間の実地調査 (国立甲府病院と実施)	令和4年11月28日 予定	
5			

緩和ケアセンターのメンバー（医師および医師以外の診療従事者）

記載の有無 あり

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

病院名： 山梨県立中央病院

時期・期間： 令和4年9月1日時点

緩和ケアセンターのメンバーについて記載してください。

注1) 様式4の回答と齟齬がないように記載してください。
注2) 研修医は除いてください。

注3) 常勤とは、原則として病院で定めた勤務時間の全てを勤務する者をいう。病院で定めた医師の1週間の勤務時間が、32時間未満の場合は、32時間以上勤務している者を常勤とし、その他は非常勤とする。

注4) 「専従」および「専任」とは、当該医療機関における当該診療従事者が「専従」については「8割以上」、「専任」については「5割以上」、当該業務に従事している者をいいます。

※ジェネラルマネージャーは、緩和ケアセンターの機能を管理・調整する常勤・専従、かつ院内において管理的立場の看護師であること。
※相談支援に携わる者については、相談支援センターの相談支援に携わる者との兼任および、相談支援センター内にて当該業務に従事することを可とする。ただし、この場合の専任とは、緩和ケアセンターにおける相談支援業務を中心となって担当していればよく、その就業時間の5割以上を緩和ケアセンターにおける相談支援業務に従事していることは求めない。

緩和ケアセンターの医師について

	役割	人数	診療科の内訳
例	身体症状の緩和に携わる医師	3	麻酔科2名（※内1名は緩和ケアセンター長）、消化器外科1名
	身体症状の緩和に携わる医師	2	緩和ケア科2名
	精神症状の緩和に携わる医師	1	精神科1名

緩和ケアセンターの看護師について（ジェネラルマネージャーおよび専門資格を有する者のみ記載してください。）
※専門資格を複数有している場合や欄に入りきらない場合は下の自由記載欄も使用してください。

	センターでの役割	常勤/ 非常勤	専従/専任 /その他	専門資格
1	ジェネラルマネージャー	常勤	専従(8割以上)	
2	ジェネラルマネージャーではない 看護師	常勤	専従(8割以上)	緩和ケア認定看護師
3	ジェネラルマネージャーではない 看護師	常勤	専従(8割以上)	緩和ケア認定看護師
4	ジェネラルマネージャーではない 看護師			
5	ジェネラルマネージャーではない 看護師			
6	ジェネラルマネージャーではない 看護師			
7	ジェネラルマネージャーではない 看護師			

緩和ケアセンターの医師・看護師以外の診療従事者について

	職種	常勤/ 非常勤	専従/専任 /その他	専門資格（取得している場合）
8				

9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				
16				
17				

	自由記載欄
例	ジェネラルマネージャー以外の看護師(上記リスト3番:がん看護専門看護師の他、がん性疼痛看護認定看護師資格有り)
例	事務員(上記リスト12番)
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	

特定のがん種に対する集学的治療提供体制について

記載の有無

なし

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

病院名： 山梨県立中央病院

期間： 和3年1月1日～12月31日

特定のがん種に対する集学的治療提供体制について、都道府県内で最も多くの患者を診療していることを明記し、必要に応じ図等を用いわかりやすく説明してください。

このシートのほかに資料がある場合は、**ファイル名の頭に別紙22を付けた**電子ファイル、別添資料を提出すること。

別添資料の提出有無 (あり／なし)

ファイル形式 (ワード／エクセル／パワーポイント／その他)

その他の場合ファイル形式を記載してください。

特定のがん種	
年間新入院患者数	人
年間新入院当該がん患者数	人
年間新入院患者数に占める当該がん患者の割合	%
年間外来当該がん患者のべ数	人
年間院内死亡当該がん患者数	人
当該がんに係る年間の手術件数	件
当該がんに対する年間の化学療法件数	件
※経口または静注による全身投与を対象とし、件数については1レジメンあたりを1件として計上する。	
当該がんに係る年間の放射線治療件数	件
※複数部位照射する場合でも、一連の治療計画であれば1件として計上する。	

特定のがん種	
年間新入院患者数	人
年間新入院当該がん患者数	人
年間新入院患者数に占める当該がん患者の割合	%
年間外来当該がん患者のべ数	人
年間院内死亡当該がん患者数	人
当該がんに係る年間の手術件数	件
当該がんに対する年間の化学療法件数	件
※経口または静注による全身投与を対象とし、件数については1レジメンあたりを1件として計上する。	
当該がんに係る年間の放射線治療件数	件
※複数部位照射する場合でも、一連の治療計画であれば1件として計上する。	

特定のがん種	
年間新入院患者数	人
年間新入院当該がん患者数	人
年間新入院患者数に占める当該がん患者の割合	%
年間外来当該がん患者のべ数	人
年間院内死亡当該がん患者数	人
当該がんに係る年間の手術件数	件
当該がんに対する年間の化学療法件数	件
※経口または静注による全身投与を対象とし、件数については1レジメンあたりを1件として計上する。	
当該がんに係る年間の放射線治療件数	件
※複数部位照射する場合でも、一連の治療計画であれば1件として計上する。	

がん診療連携拠点病院等との連携診療体制について

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

記載の有無
なし

病院名: 山梨県立中央病院

時期・期間: 令和4年9月1日時点

緊急な治療が必要な患者や合併症を持ち高度な周術期管理が必要な患者に対するがん診療連携拠点病院等と連携による診療体制について、必要に応じ図等を用いわかりやすく説明してください。
このシートに貼付することが難しい場合、**ファイル名の頭に別紙23を付けた**電子ファイル、別添資料を提出すること。

別添資料の提出有無 (あり／なし)
ファイル形式 (ワード／エクセル／パワーポイント／その他)
その他の場合ファイル形式を記載してください。

【緊急な治療が必要な患者や合併症を持ち高度な周術期管理が必要な患者に対するがん診療連携拠点病院等と連携による診療体制】

特定領域がん診療連携拠点病院の人材交流について

記載の有無
なし

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

病院名：山梨県立中央病院

時期・期間：令和3年1月1日～12月31日

※他の拠点病院等との人材交流計画について記載してください。

※個人名やPHSの番号が記載されていないことをご確認ください。

	受入／派遣	期間	職種	（受入元／派遣先）医療機関名	専門分野
例	受入	令和3年4月1日～9月30日	看護師	XX病院	がん看護認定看護師
例	派遣	令和3年10月1日～12月31日	医師	YY病院	上部消化器外科
1					
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					
17					
18					
19					
20					

グループ指定の状況

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

記載の有無

なし

病院名:

山梨県立中央病院

■グループ指定のがん診療連携拠点病院との定期的なカンファレンスの開催実施件数

期間: 令和3年1月1日～12月31日

■グループ指定を受けるがん診療連携拠点病院との連携と役割分担の状況

時期: 令和4年9月1日時点

	がん医療圏名	医療機関名	連携内容(がんの種類と役割分担)
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			

グループ間の人材交流計画について

記載の有無

なし

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

病院名：山梨県立中央病院

時期・期間：令和3年1月1日～12月31日

※グループ指定施設間での人材交流計画について記載してください。

※個人名やPHSの番号が記載されていないことをご確認ください。

	受入／派遣	期間	(受入元／派遣先)医療機関名	専門分野
例	受入	令和3年4月1日～9月30日	XX病院	消化器外科
1				
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				
16				
17				
18				
19				
20				

グループ指定の状況

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

記載の有無

あり

病院名:

山梨県立中央病院

時期・期間:

令和4年9月1日時点

	がん医療圏名	医療機関名	連携内容(がんの種類と役割分担)
1	峡東医療圏	山梨厚生病院	放射線治療等の患者の受け入れ がん化学療法や緩和ケア等で通院困難な患者の紹介 精神疾患を有する患者の紹介 症例検討会・術式検討会の合同実施 人材交流による医療スタッフのスキルアップ
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			

都道府県協議会の内容

記載の有無
あり

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

病院名：山梨県立中央病院

時期・期間：令和3年4月1日～令和4年3月31日

※以下は、都道府県拠点病院への指定を希望する病院のみ記載してください。現状の把握にのみ使用し、指定の検討会では使用しません。

●令和3年度に開催した都道府県協議会について記載してください。

- (1) 患者本位のがん医療を実現する等の観点から、当該都道府県における対策を強力に推進するための議論を行った。
- (2) 都道府県全体のがん医療等の質の向上のために、都道府県内のどこに住んでいても適切な診断や治療にスムーズにアクセスできる体制を確保すべく、以下の議論を行った。
- ① 地域の実状に応じて、医療機関間の連携が必要な医療等について、都道府県内の各拠点病院等及び他のがん診療を担う医療機関における役割分担を整理・明確化し、その内容を関係者間で共有するとともに広く周知した。
- ② 地域がん診療病院とがん診療連携拠点病院とのグループ指定の組み合わせを調整・決定した。
- ③ 都道府県内の拠点病院等の院内がん登録のデータやがん診療、緩和ケア、相談支援等の実績等を共有、分析、評価、公表等を行った。
- ④ 地域における相談支援や緩和ケアの提供体制・連携体制について協議を行い、拠点病院等の間で情報共有や役割分担を含む連携体制を整備した。
- ⑤ 当該都道府県における特定機能病院である拠点病院等と連携し、地域におけるがん診療に従事する診療従事者の育成及び適正配置に向けた調整を行った。
- ⑥ 整備指針Ⅱの4の(3)に基づき当該都道府県における拠点病院等が実施するがん医療に携わる医師等を対象とした緩和ケアに関する研修やその他各種研修に関する計画を作成している。
- ⑦ 当該都道府県内の医療機関における診療、緩和ケア外来、がん相談支援センター、セカンドオピニオン、患者サロン、患者支援団体、在宅医療等へのアクセスについて情報を集約し医療機関間で共有するとともに、冊子やホームページ等でわかりやすく広報している。
- ⑧ 国協議会との体系的な連携体制を構築している。
- ⑨ 国立がん研究センターによる研修に関する情報や国協議会での協議事項が確実に都道府県内で共有・実践される体制を整備している。
- ⑩ 感染症のまん延や災害等の状況においても必要ながん医療を提供する体制を確保するため、当該都道府県や各がん医療圏におけるBCPについて議論を行った。
- ⑪ 地域における医療情報の共有の取組について、がんの分野からも検討し、体制整備に取り組んでいる。

都道府県レベルで役割分担すべき項目(※)について議論した。

【参考】

- 令和3年4月1日～令和4年3月30日に開催した都道府県協議会の参加者について
- 同一都道府県内の全ての拠点病院等が参加した
- 都道府県庁等の行政の参加があった
- 拠点病院等以外の地域のがん診療を行う者の参加があった
- 小児がん拠点病院等の、小児がん診療を行う者の参加があった
- がん患者・経験者やその家族や患者団体等の意見を代表する者の参加があった

●都道府県協議会の広報体制について

都道府県協議会についてわかりやすく広報を行うためのWebサイトがある。

Webサイトや、冊子等で、都道府県協議会で議論された内容を広報している。

WebサイトのURL

- 令和3年4月1日～令和4年3月30日に開催した都道府県協議会での議論の内容について
- 都道府県協議会の議題や議事録等、議論の内容がわかる資料を提出すること。(ファイル名の頭に別紙28を付けること)